

「拉致」問題をめぐる4大新聞の荷重報道
—多元メディアにおける「現実」の相互構築をめぐって—

木村洋二・板村英典・池信敬子

Visualizing the Construction of Social Reality:

A “Semio-graphic” Analysis of Headlines Reporting the Abduction (“Rachi”) of Japanese Citizens by North Korea (DPRK) in the Major Japanese Newspapers in September, 2002.

Yohji G.KIMURA, Hidenori ITAMURA and Keiko IKENOBU

Abstract

On September 17th 2002, the General Secretary of DPRK Kim Jon Il apologized to Jun'ichiro Koizumi for the Abduction of 13 Japanese citizens. A graphic expression, “Semio-graph”, was devised and applied to provide a “visual representation” of the changing process of “news-weights” (=value) in terms of this Abduction. All the headlines (8.30~9.30, 2002) of major Japanese newspapers (Asahi, Sankei, Mainichi, Yomiuri) reporting the Abduction were analyzed. The frequency and area of the word Abduction (Rachi) itself were measured and mapped on to the “Semio-graphs” which enabled us to *see* the “spikes” of the agenda-setting and the general tendencies/attitudes of four newspapers against the Abduction. The Yomiuri and Sankei newspapers put heavier and earlier weights to “Rachi” compared to the Asahi and Mainichi newspapers.

Key words: abduction, North Korea, media, newspaper, headline, information, socion, communication

抄 録

本研究は、2002年8月末から9月末にかけて4大新聞（朝日・産経・毎日・読売）の各紙で報じられた日本人拉致問題に関連する記事をすべて収集して、その「見出し」にあらわれた「荷重」（＝顕在的・潜在的な重みづけと価値評価の傾向）を定量的・定性的に分析する。4紙の荷重報道は、他紙に先駆け、あるいは後を追う形で報道合戦を繰りひろげながら一定の波動を描く形で展開する。推測されるように、拉致の被害家族と北朝鮮に対する報道姿勢において朝日と産経のあいだに対照的な差異が見出された。いずれにしても、開発した荷重グラフ上の波動を検討することから、複数のメディアがたがいに自他の視点をくり込みながら、「世論」とよばれる「現実」を多重輻輳的に形成していくプロセスを垣間見ることができるといえる。

キーワード：拉致、報道、メディア、情報、メッセージ、見出し、北朝鮮、アジェンダ、ソシオン、世論、新聞

I 序 論

はじめに

2002年9月17日、日朝首脳会談のために平壤入りした小泉首相にたいして、朝鮮民主主義人民共和国の指導者金正日は、13名の日本人の「拉致」の事実を認めて謝罪した。北朝鮮側が日本人の拉致を公式に認めたことは、日本人と日本にとって、東西冷戦終了後東北アジアになおくすぶり続けたイデオロギー対立の終末期に出現した戦後最大級の事件であった¹⁾。その後、拉致被害者の生死と帰国問題をめぐって、日本のメディアは激しい報道合戦を繰り広げることになったが、そのプロセスのなかで、戦後日本が内包しつつも隠蔽（もしくは忘却）してきた「意味世界」の割れ目と怪しい特異点の存在が全国民の前に露呈された。「拉致」問題は、ひとりの少女の叫びにこころを閉ざしてきた私たち戦後世代の欠落を照らし、「戦後平和主義」の腐食の根源を抉りだす力をもっていると同時に、ヒロシマとヤスクニをめぐって占領統治によって仕掛けられた謀略の罟（江藤淳1989）を解く鍵となる可能性が高い。

ソシオン理論と荷重の概念

私たちは、ヒト社会を、関係のなかで信—不信の重みづけ（「荷重」）を自己組織化する複合多重ネットワークとして捉え、そのネットワークの変換素子を、ソシオン（Socion＝

1) 13歳で学校帰りに「拉致」された横田めぐみさんのお母さん早紀江さんは、悲しみの記者会見のなかでとっさに、「（めぐみは）犠牲になり、使命を果たした、濃厚な足跡を残した、と思うことで頑張ります。」と語った。また美智子皇后は10月の誕生日の挨拶で「何故私たち皆が、自分たち共同社会の出来事として、この人々の不在をもっと強く意識し続けることが出来なかったのかとの思いを消すことができません。」と語った。自らをふりかえるとき、日本人のあいだには、北朝鮮によるこの拉致問題をめぐって、「否認」と「排除」の規制が無意識のレベルで働いていたと考えざるをえない。「拉致」の事実自体があたかも存在しないかのように「否認」して（「マサカ！」「デマに決まっている！」）、日常の意識から「排除」する。その結果として、他国から加えられた同胞の「苦難」を思いやることもなく、同時に、残虐な暴力を加えた当の者に対して「怒り」を感じることもない。あたかも天災や事故と同じように（！）あきらめをもって忘却したかのようである。

私見では、この「否認」と「排除」は、「戦後世界」の意味構成、とりわけ「ヒロシマ」と「ヤスクニ」にたいする日本人の捉え方と深く関連しているように思われる。私たちは、他国によってヒロシマの非戦闘員同胞にもたらされた「残虐」に「怒る」ことを忘れた（それどころか、ヒロシマの原爆記念碑には「安らかに眠って下さい。過ちは繰返させぬから」ときざまれているほどである）。そして同時に、私（たち）は、妹や母や故郷のためと信じて戦って死んでいった人々への「追悼」のこころを忘れた。（「いざさらば、我は御国の山桜、母のみもとにかへり咲かなん」——これは関西大学の学徒であった緒方裏が最後の一夜を母と語り明かして発ったあとに残されていた歌である。「散る花の いざさよさをばめでつつも 母のこころはかなしかりけり」が母の返歌であった。）

「めぐみ、お母さんがきつと助けてあげる」は母早紀江さんの著書のタイトルである。今、その「少女」はこの国にあって私たちが愛すべきものすべての象徴となった。「少女」は、いたわるべき祖父や祖母であり、苦しみを負う隣人であり、手を差し伸べるべき他者すべてである。私たちのまもるべき「少女」はどこにいるのか、それはだれか？ 私たちは隣人の子どものために何をするのか。この問いと試練をくぐらずに、隣国はもとより人類への愛を語ることは欺瞞であり、危険な観念の罟ではないか？

共同研究者である学生諸君と議論を重ねるなかで生まれてきた上のような疑問が、本研究の基底にある問題意識である。もちろん今回の報告は、とりあえず思考停止から脱却しようとして踏み出した私たちの不器用な一歩でしかない。

Socio+Neuron) と名づけた (木村他2001)。「荷重」(Semio-weight) は、情報を授受するソシオン (人間あるいはその集団) が、表象やコミュニケーション・チャンネルに負荷 (「備給」) する「予期ポテンシャル」で、デキゴトの重要性とその性質に応じて、好悪、賛否から信—不信といった分極性をしめすと仮定する。この「荷重」の大／小と正／負の分極によって、伝えられるデキゴトの重要性や信憑性の程度、つまりリアリティの度合いが、受け手においてあらかじめ誘導的に決定される、と考えられる。

メディア・情報・リアリティ

社会的コミュニケーションにおける「情報」は、伝達される「内容 (メッセージ)」とその「荷重 (信頼性)」の2つの要素から成る。

$$\begin{aligned} \text{情報} &= \text{メッセージ} \times \text{荷重} \\ (\text{Information} &= \text{Message} \times \text{Weighting}) \end{aligned}$$

一般に、受け手の意識は語られる「内容」を指向するが、その内容の「リアリティ」(信憑性や重要度) は、この「荷重」によって無意識のうちに (しばしば内容に優先して!) 伝達され読みとられる。語気を強めたり、ニヤニヤしたり、テーブルをたたいたりするノンバーバルな行動は、この荷重成分をあらわしている。

会話において「表情」はもちろん、「声の大きさ」や「音調」さらには話題の転調などが荷重要素として重要であるように、新聞においては「見出しの大きさ」や「レイアウト」「用語ニュアンス」などが重要な荷重要素となっていると考えられる。ネットワーク間のコミュニケーションでは、これらメッセージに付随する荷重成分 (メッセージ荷重) に加えて、さらにその情報の発信者 (発言した者、載せた新聞) に対する「信頼度」(チャンネル荷重) が「デキゴト」のリアリティを、したがって伝えられた情報の作用力を決定する、と仮定できる。

$$X_s = X_m * M_s$$

X_m は媒介者 (メディアエーター) M がデキゴト X においた荷重 (メッセージ荷重)

M_s は受け手 S が媒介者 M においた荷重 (チャンネル荷重)

X_s は S に伝達されたデキゴト X の荷重 (リアリティ)

新聞紙面と無意識

「見出し」の大小と配置が2次元の空間において決定されることは、新聞というメディアの顕著な特質である。「見出し」の大きさや記事量、そして位置は、まさに2次元の「紙面」に写像されたデキゴトの荷重ポテンシャル量を（しばしば記事の内容そのものとは独立に！）あらわしている。

大きな見出しは大きな「予期ポテンシャル」を励起するが、荷重そのものは、読者に意識されにくい。読者の意識は、荷重要素よりも言語によって指し示された意味内容を指向する、つまり記事の書かれ方よりも書かれた内容そのものを捉えようとするからである。その意味で、紙面に張られる荷重空間は、新聞というメディアの「無意識」の次元を構成する、と言えるだろう。しかも、紙面上で報じられるデキゴトのリアリティをまず規定するのは、この無意識のポテンシャル場の構造なのである。

図1は、新聞紙面とその背後にある「荷重ポテンシャルの勾配ベクトル場」を例示的に図示したものである。

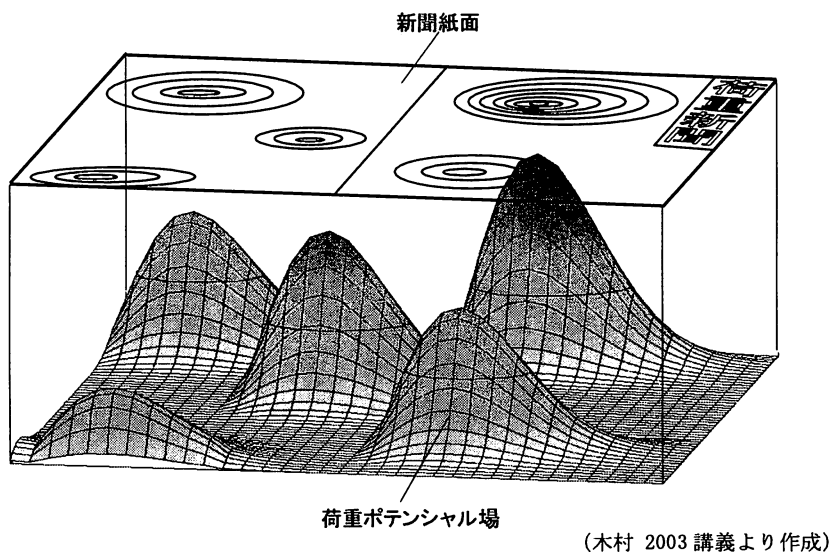


図1 「荷重ポテンシャル場」としての新聞紙面

紙面の背後には「荷重ポテンシャル場」が隠されており、それぞれのデキゴトに付帯する荷重ポテンシャルの高さがそのまま新聞紙面の重みづけに反映されていると考えられる。新聞紙面に描かれた等圧線は、紙面に写像された、荷重ポテンシャル場を示している。

新聞を読む受け手は、一般に、伝達される「メッセージ内容」の把握に意識が働くため、この荷重ポテンシャルそのもの（たとえば活字や見出しの「大きさ」そのもの）が意識的に捉えられることは少なく、その大きさを「デキゴトの大きさそのもの」として無意識的に受け取る（＝「生きる」）ことになる。

対象と方法

以下、「日本人拉致」問題をめぐる、朝日新聞・毎日新聞・産経新聞・読売新聞（朝日（A）・産経（S）・毎日（M）・読売（Y）とする）の4大新聞における荷重報道について、その「見出し」にあらわれた「荷重」（＝顕在的・潜在的な重みづけと価値評価の傾向）を定量・定性的に分析する。

分析対象は、朝日・毎日・読売の各縮刷版、および産経（大阪本社発行版）の朝・夕刊における「北朝鮮による日本人拉致」事件に関連するすべての見出しである²⁾。

選択の基準となったワードは、拉致・北朝鮮・朝鮮民主主義人民共和国・日朝首脳会談・国交交渉・日朝（正常化）交渉・訪朝・不審船・よど号・拉致被害者およびその家族の氏名・救う会・拉致議連・金正日（総書記）である。

対象期間は、小泉首相の訪朝が発表された2002年8月30日から9月30日までの1か月間である。

方法として、日本人拉致事件に関連するすべての記事のうち、「見出し」に注目し、記事の「内容」を捨象した上で、①「拉致」に関連する全見出しの本数、②「拉致」を含む見出しの出現頻度、③見出しにおける「拉致」の文字面積の3つの荷重要素を新聞紙面における「荷重量」（＝「報道量」）として測定する³⁾。

さらに、これらの荷重量を時系列にプロットングすることで、4大紙の報道における荷重成分とその通時的変動を視覚的に表現するグラフ（＝「荷重グラフGraphs of Semio-Weights」）の開発を試みる。軌道上に、それぞれのメディアが言語的に記述・伝達しようとする「内容」とは独立に、読者の「リアリティ構成」（ひいては「世論」）を規定しようとしてせめぎ合う無意識の「力」の存在を読み取ることができる。

2) 本研究は見出しの分析が主となるため、「天声人語」など見出しのない「コラム」は分析から捨象した。なお、産経新聞は縮刷版が発行されていないため、原版を対象とした。

今回はやむを得ず縮刷版を使用した。新聞を対象とした調査ではできるだけ原版を使用して分析を行うことが重要である。たとえば、朝日の2003年5月13日夕刊の「曾我さんに夫から手紙」という見出しの記事では、原版に記載されていた北朝鮮にいる曾我ひとみさんの夫の住所が、縮刷版では抹消されていた。縮刷版は原版がそのまま収録されたものではないのである。

3) 文字面積は、実際の紙面に書かれた「拉致」という2文字を定規で測った。大きさを原版の産経に合わせるため、朝日・毎日・読売の縮刷版の面積は縦横の辺の長さをそれぞれ2倍して算出した（縮刷版は原版の50%）。

Ⅱ 「拉致」事件をめぐる報道

1980年1月7日、産経新聞が1面トップで〈アベック3組ナゾの蒸発〉という見出しの記事を掲載し、日本各地で相次ぐ失踪・行方不明事件について報じた。また、〈外国情報機関が関与?〉という見出しをつけ、外国人の関与をほのめかした。

表1 「拉致」の年表⁴⁾

1980. 1. 7	サンケイ新聞がアベック3組の蒸発事件を初報道。外国人の関与をほのめかす
1987. 11. 29	大韓航空機爆破事件
1988. 3. 26	参議院予算委員会で初めて拉致問題が取り上げられる。梶山静六国家公安委員長が「北朝鮮による拉致の疑いが濃厚」と答弁
1990. 9	金丸・田辺訪朝団訪朝
1991. 1. 30	第1回日朝国交正常化交渉
1991. 11	第8回日朝国交正常化交渉で、日本側が李恩恵問題を提起すると北朝鮮側が退席。交渉が中断する。
1995. 6	北朝鮮に30万トンのコメ支援。さらに10月に20万トンの追加支援
1997. 1	「北朝鮮に拉致された日本人を救出する会」(救う会)発足
1997. 2. 3	横田めぐみさん初の実名報道
1997. 3. 25	「北朝鮮による拉致被害者家族連絡会」(家族会)発足
1997. 5. 1	日本政府が「7件10人が北朝鮮に拉致された疑いが濃厚」と発表
1997. 10. 7	金正日が総書記に就任
1998. 8. 31	北朝鮮が日本に向けてテポドン1号を発射、青森沖に落下
1999. 12	村山富市元首相の日本国政代表訪朝団が訪朝
2000. 3	コメ50万トンの支援決定。「家族会」「救う会」が外務省・自民党本部に対して座り込み抗議を行う
2000. 4. 4	第9回日朝国交正常化交渉再開
2000. 6. 13	金大中・韓国大統領が訪朝。金正日と会談。
2000. 10	第11回日朝国交正常化交渉。以後再び中断
2001. 12. 22	奄美大島沖の東シナ海で不審船が海上保安庁の巡視船に発砲。銃撃戦後に沈没
2002. 3. 11	よど号犯元妻八尾恵の証言で警視庁が有本恵子さんを拉致被害者と断定。日本政府が拉致認定を8件11人とする
2002. 4. 25	「北朝鮮に拉致された日本人を早期に救出するために行動する議員連盟」発足
2002. 8. 30	小泉首相が訪朝を発表
2002. 9. 4	能登半島沖に不審船が現れる。
2002. 9. 11	奄美大島沖に沈没した不審船が引き揚げられる
2002. 9. 13	日米首脳会談
2002. 9. 17	日朝首脳会談。金正日総書記が拉致を認める
2002. 9. 19	拉致被害者の「死亡年月日」が家族に伝えられる
2002. 9. 27	小泉首相が拉致被害者家族と面会
2002. 10. 15	拉致被害者の5人が帰国
2002. 10. 16	米、北朝鮮が核兵器開発を認めたと公表
2002. 10. 24	政府が拉致被害者5人の永住方針発表



図2 産経の報道(2002/9/15特集)

4) 年表は、佐藤(2002)、北朝鮮による拉致被害者家族連絡会(2003)より作成した。

その後、1997年2月3日、産経新聞と「AERA」は、1977年11月15日に当時13歳の少女だった横田めぐみさんが、学校からの帰宅途中、北朝鮮によって拉致された疑いがあると、初めて実名で報道した。

2002年8月30日、小泉首相は北朝鮮への訪問を発表し、同年9月17日の日朝首脳会談において、金正日総書記は北朝鮮による「日本人拉致」の事実を認め、謝罪した。そして、2002年10月15日、拉致被害者の5人が日本への「一時帰国」を果たすこととなった。

9月18日の紙面比較

2002年9月18日、金正日総書記が北朝鮮による「日本人拉致」を認めて謝罪したことが一斉に報じられた。図3は、朝日（A）・産経（S）・毎日（M）・読売（Y）の18日朝刊第1面である。



朝日 (A)



産経 (S)



毎日 (M)



読売 (Y)

図3 2002/9/18各紙朝刊1面

各紙ともに第1面では、〈8人死亡〉と〈5人生存〉という非常に大きな見出しがつけられている。見出しにおけるワードの「重みづけ」（見出し文字の大きさ）に注目し、〈8人死亡〉と〈5人生存〉という文字の面積比を測定したところ、朝日（A）・毎日（M）は〈8人死亡〉と〈5人生存〉というデキゴトを同列に重みづけた（1：1）のに対して、産経（S）・読売（Y）は〈8人死亡〉の方に重みを持たせた（産経12：1、読売5：1）ことが分かる⁵⁾（表2）。

表2 「8人死亡」・「5人生存」の面積比

	面積比	
	8人死亡	5人生存
朝日(A)	1 (46.92cm ²)	1 (46.92cm ²)
産経(S)	12 (68.32cm ²)	1 (5.52cm ²)
毎日(M)	1 (47.04cm ²)	1 (47.04cm ²)
読売(Y)	5 (69.72cm ²)	1 (14.04cm ²)

また、他のワードを比較すると、朝日（A）とその他の新聞では明らかな違いが見られた。「日朝間の交渉が来月に再開する」というデキゴトに対して、産経（S）・毎日（M）・読売（Y）は〈国交交渉〉というワードを用いているが、朝日（A）は〈正常化交渉〉という語を用いて「日朝交渉」を伝えている⁶⁾（表3）。

表3 「正常化交渉」と「国交交渉」

頁	朝日(A)	頁	産経(S)	頁	毎日(M)	頁	読売(Y)
1	正常化交渉を来月再開	1	国交交渉再開へ	1	国交交渉, 来月に再開	1	国交交渉, 来月再開

「握手」と「涙」の写真

9/18朝刊の1面を比較すると、見出しのほかに「写真」にも違いが見られる。産経（S）・毎日（M）・読売（Y）の3紙には、拉致被害者・横田めぐみさんのご両親である横田滋・早紀江さんが涙をこらえながら会見に臨む写真が掲載されている。

これに対して、朝日（A）だけは、小泉首相と金正日総書記が「日朝平壤宣言」を交換している写真を掲載している。1面の写真で見る限り、朝日（A）は「悲しむ家族」よりも「日朝友好」に「荷重」を置いた報道をおこなっていることが読みとれる。

5) 「8人死亡」「5人生存」という情報は、日本側の調査によって裏付けられた事実ではなく、あくまで北朝鮮によって伝えられたものである。

6) このように、あるデキゴトをどのようなことばを用いて表現するかという問題は非常に重要である。新聞社ごとに選択される用語を比較することによって、それぞれの視点や立場を垣間見ることができる。

Ⅲ 荷重のグラフ表現

見出しにあらわれた荷重要素からそれぞれの成分値を計測し、その「荷重量」をグラフ化する。

「拉致」に関連する見出しの総本数（図4）と、「拉致」の頻度と面積を合成した2つの荷重グラフ（図5）を作成する。基礎となったデータは、以下の通りである（表4）。

表4 各紙別見出しデータ一覧

日付	朝日(A)			産経(S)			毎日(M)			読売(Y)		
	総本数 (本)	「拉致」 頻度 (回)	「拉致」面積 (cm ²)	総本数 (本)	「拉致」 頻度 (回)	「拉致」面積 (cm ²)	総本数 (本)	「拉致」 頻度 (回)	「拉致」面積 (cm ²)	総本数 (本)	「拉致」 頻度 (回)	「拉致」面積 (cm ²)
8.30	19	3	10.88	19	2	11.74	12	1	1.28	17	2	6.20
8.31	113	6	26.04	98	5	18.28	73	4	9.80	105	6	23.72
9.1	33	2	2.00	21	3	14.60	19	0	0.00	22	4	8.24
9.2	6	0	0.00	17	0	0.00	11	0	0.00	19	3	13.92
9.3	37	5	1.36	31	3	5.23	37	2	4.16	33	2	4.92
9.4	34	3	0.88	20	3	4.47	16	1	1.28	27	3	2.44
9.5	24	0	0.00	26	0	0.00	30	1	1.28	25	0	0.00
9.6	28	2	5.44	37	4	1.73	31	2	0.64	34	1	0.60
9.7	29	1	0.32	35	1	0.32	52	3	9.00	32	4	15.36
9.8	17	1	1.28	30	1	1.05	16	0	0.00	23	1	0.72
9.9	4	0	0.00	3	0	0.00	4	1	0.32	10	0	0.00
9.11	11	1	1.28	21	2	9.63	9	1	0.32	17	3	4.16
9.11	27	2	3.92	46	3	2.42	27	1	6.48	46	2	2.32
9.12	36	1	0.96	29	1	2.04	30	1	0.32	43	1	0.24
9.13	25	1	1.28	45	1	0.32	35	1	1.28	15	1	4.20
9.14	52	4	11.72	46	4	4.08	39	2	5.60	51	2	2.32
9.15	23	1	0.32	74	8	29.58	39	3	10.16	35	2	10.24
9.16	48	5	10.64	20	2	4.04	51	4	15.68	31	4	9.32
9.17	72	8	22.44	77	8	30.48	124	9	36.60	92	10	44.40
9.18	205	21	73.44	165	15	64.50	188	15	56.20	180	16	86.48
9.19	92	7	13.00	103	8	21.91	140	10	16.40	91	12	26.92
9.20	103	10	16.08	101	11	26.08	84	11	17.44	93	11	27.04
9.21	66	6	18.72	78	8	20.97	66	5	18.64	80	8	8.16
9.22	21	3	7.24	45	5	9.94	38	5	5.88	42	5	16.32
9.23	32	3	1.36	35	5	5.99	50	4	4.88	66	6	15.04
9.24	29	4	9.28	43	4	19.79	47	5	3.24	30	5	14.72
9.25	46	6	4.76	32	6	8.50	48	6	10.88	42	6	18.44
9.26	36	5	11.80	57	8	9.05	77	12	12.88	49	7	10.36
9.27	101	9	11.76	42	6	8.32	79	12	10.36	55	10	14.08
9.28	59	5	9.48	53	7	4.96	66	8	10.24	52	7	8.08
9.29	15	2	2.96	27	3	6.13	14	3	2.08	13	4	3.56
9.30	24	2	4.16	21	3	3.44	23	2	2.56	17	2	5.84
計	1467	129	284.80	1497	140	349.59	1575	135	275.88	1487	150	408.36

まず、「拉致」問題に関連する見出しの本数を比較すると、総本数では、毎日（M）が1575本で最も多く見出しを用いた。最も少なかったのは朝日（A）の1467本であった（図4）。

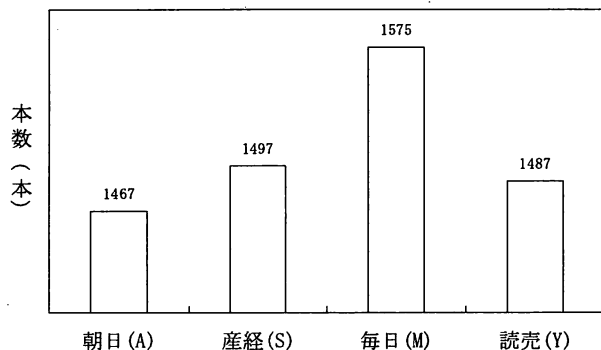


図4 関連見出しの総本数

次に、見出しにおける「拉致」というワードの「出現頻度」の値と、「拉致」の「文字面積」をそれぞれ合計し、それらを合成して「荷重グラフ」化したものが図5である。図中の三角印(▲)は「拉致」の出現頻度をあらわし、「拉致」の面積を棒グラフで表示している。

見出しにおける「拉致」の出現頻度は、「拉致」というデキゴトを、「拉致」ということばを用いてどのくらい報道したかを示すものである。そして、見出し文字の面積の大きさは、会話における「声」の大きさに相当すると考えられる。

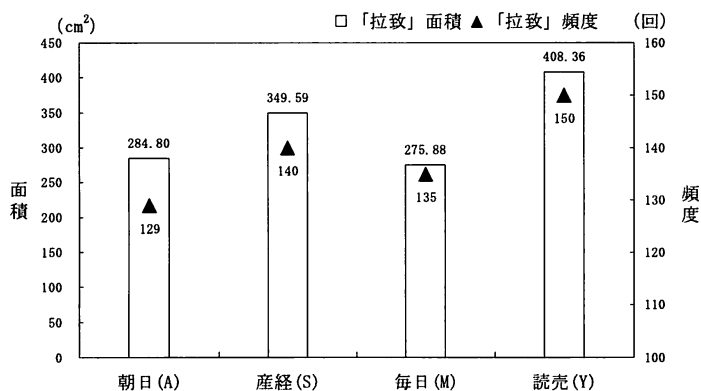


図5 「拉致」の頻度と面積の合成グラフ

毎日 (M) は「拉致」に関連する見出しの総本数 (図4) でみると、最も多くの見出しを用いていたが (1575本)、「拉致」という文字の総面積は最も小さかった (275.88cm²)。したがって、毎日 (M) は「拉致」に関連する問題については多く取り上げたものの、そ

の中で「拉致」という文字の面積荷重は少なかった（＝「声」の大きさが小さかった）といえる。

4紙の中で「拉致」というワードを見出しに多用し、かつ面積も大きく使って報道していたのは、読売（Y）である。読売（Y）は「拉致」の頻度が150回で、その面積は408.36cm²であった。

関連見出しの総本数と同じく、「拉致」の頻度が最も少なかったのは朝日（A）である。朝日（A）の「拉致」ワードの使用頻度は129回で、その面積は毎日（M）と同程度であった（284.80cm²）。

Ⅳ 荷重グラフ

新聞紙面に見出される「荷重量」を計測し、そこから得られる値を時系列にプロットングすることによって、荷重量の通時的变化を示すグラフを作成する。これを本研究では、時系列の「荷重グラフ」（Dia-chronic Semio-Graphs of News-weights）とよぶ。

時系列「荷重グラフ」は、各日付に注目することによって、その時々各紙の荷重量を「共時的」に比較することができる。また、全日程を通してみることによって、各紙の荷重量の「通時的」な変遷を「視覚的」に対比することができる。さらに、複数の新聞社を色別で同一平面上に示すことによって、これらを同時に比較・検討することが可能となる。

本研究では、「見出しの総本数」、「拉致ワードの出現頻度」、「拉致ワードの面積」について、それぞれの「荷重グラフ」を作成する⁷⁾。

7) 「荷重グラフ」の着想は、中井久夫の研究による。中井は分裂病患者のその時々行動や状況、症状などを事細かく観察し、それを次に示すようなグラフに時系列に記述することで、患者の「寛解期」に至る過程を解明しようとした（中井1984）。

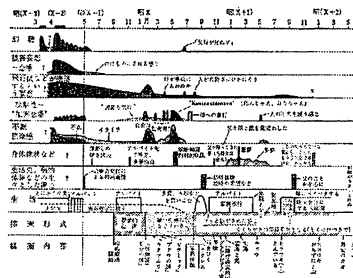


図6 妄想的経過：急性期中途から臨界期の終末までを示す（中井 1984：152）

「荷重グラフ」は、メディアの報道における荷重値を時系列に表示したものである。グラフ上にあらわれた荷重量の変遷は、世論の分裂や収束に至る過程を示しており、「荷重グラフ」はその観察に有効だと考えられる。

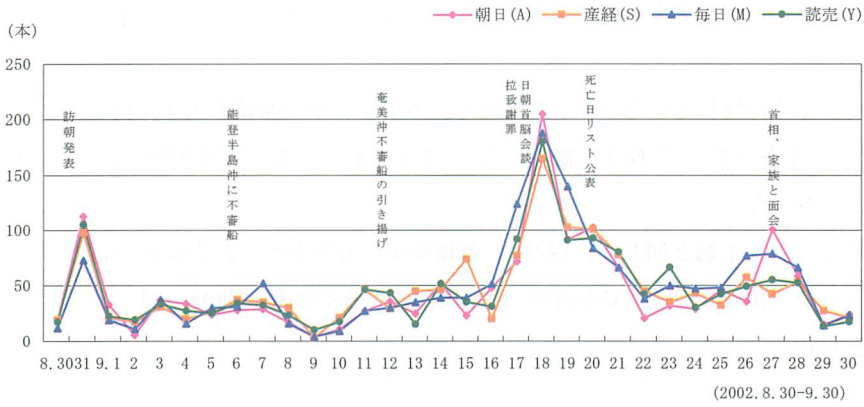


図7 「拉致」関連見出しの総本数の推移

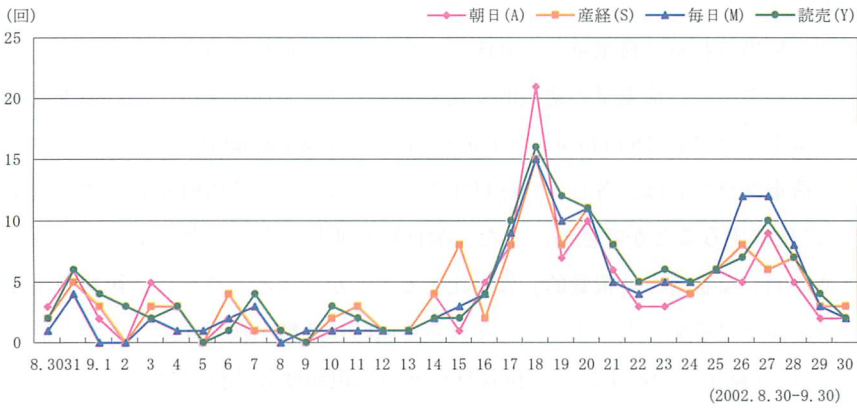


図8 「拉致」の出現頻度の推移

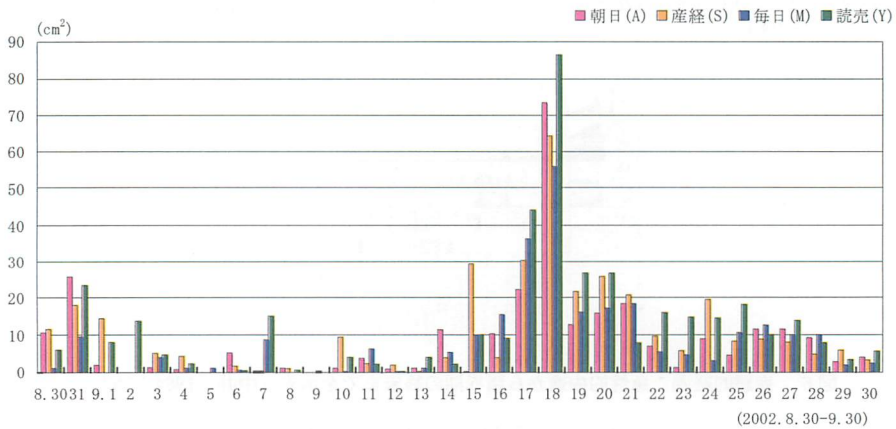


図9 「拉致」面積の推移

Ⅳ—1 時系列「荷重グラフ」

（1）「拉致」関連見出しの総本数の推移（図7）

図7は、「拉致」に関連する4大紙の見出しの本数を集計し、時系列に並べたものである。縦軸は「拉致」関連見出しの総本数、横軸は時間（8/30—9/30）を示し、色別でそれぞれの新聞社をあらわした（朝日（A）：赤、産経（S）：橙、毎日（M）：青、読売（Y）：緑）。

「荷重グラフ」から、各紙がその日ごとに「拉致」関連の報道にどれほどの荷重を置き、その「荷重量」（＝「報道量」）が全期間にわたってどのように変化したかを読みとることができる。

（2）「拉致」の出現頻度の推移（図8）

図8は、すべての関連見出しの中から、「拉致」というワードが含まれる見出しを抽出し、その本数を時系列にグラフ化したものである。

このグラフには、各新聞社が「拉致」を、何回見出しに使用したか（何度「拉致」ということばを発したか）が示されている。

このグラフのピークは、各紙が「拉致」という事件にどれほど関心を持ち、それをどれだけ報じていたかを示している。

（3）「拉致」面積の推移（図9）

図9は、「拉致」という2文字の「面積」を計測したものである。各紙の記事見出しにあらわれた「拉致」という文字の面積をその日ごとに合計し、その値を棒グラフで表示している。それらを時系列にプロットしたものが「『拉致』面積の荷重グラフ」である。

Ⅳ—2 考察

（1）総本数の推移（図7）

図7のグラフからは、報道量には3つのピークがあることが分かる（8/31「小泉首相訪朝発表」、9/18「日朝首脳会談」、9/27「首相と家族が面会」）。これらのピークの高さ（＝「拉致」関連見出しの本数）は、「報道の過熱度」をあらわしており、各新聞社が積極的に「拉致」関連の記事を取り上げたことを示している。

(2) 「拉致」の出現頻度 (図8)

① 9/18朝日(A)の突出

この日の朝日(A)の「拉致」見出しに見る荷重量は、他紙に比べて顕著に多かった。朝日(A)の「拉致」の頻度荷重(21回)は全紙中最多である。

以下の表5は、9/18各紙の「拉致」を含む見出しである。

表5 各紙「拉致」見出し一覧(2002.9.18)

朝日(A)	産経(S)	毎日(M)	読売(Y)
1 拉致、8人死亡 5人生存 金総書記、認めて謝罪	1 横田、有本さんから8人死亡 日朝首脳会談 金総書記 拉致認め謝罪	1 拉致 8人死亡5人生存 日朝首脳会談 金総書記が謝罪 国交交渉、来月に再開	1 拉致の8人死亡 横田、有本さんから 金総書記謝罪 5人生存
2 ・拉致・不審船			
3 拉致家族と首相面会へ			
4 (社説) 日朝首脳会談 悲しすぎる拉致の結末 変化促す正常化交渉を	2 拉致、死亡…なぜ援助 ミサイル、核問題 弾射実験の凍結延長 実効性に疑問も	2 拉致・謝罪、宣言に盛らず 北朝鮮 内外で使い分け	2 国民の不信感高まる 首相、断罪せず署名 拉致の8人死亡 国交交渉に影響も
5 ・拉致の徹底説明を			
6 金総書記「成果」 調印に一時迷いも		3 死因、残るナゾ 拉致認定6人死亡	3 金総書記 拉致「変動主義」不審船「特殊部隊がやった」 生き残りへ慶賀
7 金総書記「これは拉致」	3 「国益に合致する」 首相会見	4 「役目終え処刑」脱も	
8 「拉致真相なお追及を」 野党	4 拉致、痛恨の極み	4 拉致首者 世論硬化も 首相、苦渋の決断 国交交渉、前途険しく	4 「拉致」協議、外務省説明の要旨
9 目的は達成したか 日本の悲感通り拉致の反発危う	4 納得できない決着 金総書記 拉致で謝罪 「国家主導」の色彩 「続ね上りの犯罪」強調 死因「病気か事故」	5 拉致事件 「特殊機関の活動」 金総書記	5 「拉致」は未解決だ 首脳会談 家族に冷たい対応 外務省「国交優先を」の声すら
10 「拉致」告白の裏側 核疑惑も解明か変化一気に促せ		6 ・日本人拉致	6 ・「拉致」は未解決だ
11 ・拉致問題		7 英、拉致事件を非難	7 拉致被害者8人死亡 与野「逆風」を警戒
12 李氏 国家テロの激しい現実 小牧氏 真相を究明して補償を ・拉致問題	5 拉致当時 金総書記すでに権力者	8 (社説) 日朝首脳会談 許し難い残酷な国家テロだ 拉致究明なき正常化はない	8 釈明も説得力なく 金総書記 拉致当時には権力 70,80年代 後継者の地位固め
13 拉致「日本語学習のため」 金総書記「理由」を語る 「特殊機関一帯に変動主義」	8 防衛庁防衛研究所主任研究官 武貞秀士氏 拉致に疑された安全保障問題	9 日朝首脳会談 戸籍問題 拉致死者 国民の反発懸念	9 北朝鮮マヌコミ拉致には触れず 10 「拉致」な最大の問題
14 日朝首脳会談のやりとり ・拉致問題	9 識者の見方 会談自体は合格点「北」の真意不気味 ・佐藤正巳(北朝鮮に拉致された日本人を救出するための全国協議会)	10 「救済、すべて無敵」 拉致認定外石岡さん見	10 「首相防衛」緊急座談会
15 死「信じぬ」認めぬ 北朝鮮拉致被害者 安否判明 横田さんの部内の知人 驚き、怒り、不信	10 到着までもなく拉致「悲報」 「頭振り」首相無言のまま 安倍氏「調印は考え直す」 9.17午後11時間40分	11 娘死んでたなんて 拉致事件・生死判明 「最期の時知りたい」 有本さん両親 「一番待ちたい日」が…	11 交渉 やむを得ぬ 宮沢 「北」の反省 重要 五十嵐 ・拉致
16 百葉夫う在日社会 拉致の事実、怒り・むなしさ 「国家として責任取って」 日朝首脳会談	11 面会「父や母に会いたい」 ・「拉致がなあ」	12 「生存者、1ヶ月以内に帰国を」 拉致家族	12 待ち続け残酷宣告 拉致安否 涙の家族「死亡信じない」 いつ、どうやって
17 北朝鮮テレビ拉致に触れず ・「拉致認めぬ」画期的 姜英之・東アジア総合研究所長の話	12 拉致被害者家族「眠れなかった」 政府説明に何度もため息 「生、きちんと確認して」	13 日朝 正常化交渉 長期化も 拉致事件反発強く 東京関係困難に	13 猛批判 たじろぐ官邸 「拉致 こんな悲惨な結果とは-」 決断正しかった 首相強調
19 拉致事件 首相、家族と27日面会 安否情報 詳細を直接説明	14 所信表明で拉致問題言及 石原都知事	14 拉致問題の衝撃 日朝関係 交渉はどうあるべきか	14 拉致被害者問題組織設置へ 15 「拉致」なおおえず 北朝鮮
20 米、慎重姿勢崩さず 拉致家族に哀悼も 日朝首脳会談	15 韓国承認 「よど号犯」切り? 拉致問題と反論の根拠失う	15 眠れぬ夜 晴れぬ朝 ・拉致事件家族	16 「生きていた証しをせ」 拉致家族 一夜明け、怒りも新たな 官房副長官面会 批判の声々々
21 拉致 知らされぬ国民 北朝鮮メディア報道せず			

② 産経(S)のアジェンダ・セッティング

日朝首脳会談直前の9/15に、産経(S)が8回の「拉致」を見出しに用いて報道し、他紙に比べて有意に多かった。中でも朝日(A)の頻度荷重は1回と非常に少なかった。

産経(S)は、この日、「日本人拉致問題」の特集を組んでおり、「拉致」についてのアジェンダを設定する役割を果たした。逆に、朝日(A)は「拉致」問題について抑制的であったといえるかもしれない。

15日における、各紙の「拉致」見出しは、以下の通りである(表6)。

表6 各紙「拉致」見出し一覧（2002.9.15）

頁	朝日(A)	頁	産経(S)	頁	毎日(M)	頁	読売(Y)
1	金総書記 訪朝「画期的な契機」	2	共同通信に書面で回答 金総書記「画期的な契機」 訪日も示唆 意表突く「北」歓迎演出 はや“微笑外交” 謝罪・補償要求変えず 懸案事項ほかす	1	金総書記 「正常化へ画期的契機」 共同通信書面インタビュー 首脳会談に期待	1	金総書記 「訪朝 画期的な契機」 共同通信に書面で回答 「謝罪と補償」要求
				3	金総書記 局面打開へ意欲示す 共同通信書面インタビュー 個別問題は新味なく	2	金総書記 会談の主導権狙う 書面回答 拉致「大きくない問題」

③ 毎日（M）の追い上げ

9/26・27の両日、毎日（M）は「拉致」を12回ずつ取り上げて報道している。26日は、「有本恵子さん拉致事件」で「よど号」の安部容疑者に逮捕状が出され、「よど号」に関連した「拉致」の見出しが多かった（表7）。

毎日（M）は26日に〈有本さん拉致〉という見出しを4回使用し、「よど号」関連の見出しが多かった。引き続き27日にも、社説に〈拉致とよど号赤軍〉という見出しをつけるなど、「拉致」と「よど号」を関連づけて多く報道した。

表7 各紙「拉致」見出し一覧（2002.9.26）

頁	朝日(A)	頁	産経(S)	頁	毎日(M)	頁	読売(Y)
1	「よど号」安部容疑者 有本さん拉致で逮捕状	1	有本さん拉致 「よど号」安部容疑者に逮捕状 警視庁 2男性も本格調査	1	有本さん拉致 よど号容疑者に逮捕状 北朝鮮に身柄要求	1	有本さん事件で逮捕状 「よど号」犯安部容疑者 「拉致」初の立件 近く国際手配
		31	有本さん拉致 学校で声掛け親密化 仕事誘い北朝鮮に	3	有本さん拉致で逮捕状 離航調査ついに入り口	39	声震わせ「真実を」 「拉致」逮捕状 「よど号犯」に3家族怒り 「他メンバー関与、間違いない」
				31	「絶対、自供させて」 有本さん拉致で逮捕状 生存信じ 父母懇願		
				e11	有本さん拉致 手紙 失踪後に投かん？ 「よど号」メンバー 発覚遅らせる狙いか		

④ 読売（Y）の先行

読売（Y）は9/1に4回にわたって「拉致」に関する報道をおこなっている（表8）。

また、2日の読売（Y）は、他紙が「拉致」のワードを一切使用していない中で、単独で「拉致」を報じている。

したがって、読売（Y）はこの段階でアジェンダを設定する役割を果たしたといえる。なお、毎日（M）はこの両日、一度も「拉致」を報じていなかった。

表8 各紙「拉致」見出し一覧(2002.9.1/2)

	頁	朝日(A)	頁	産経(S)	頁	毎日(M)	頁	読売(Y)
9.1	2	ヤン・C・キム米ジョージ・ワシントン大名譽教授 「拉致」解決、期待できぬ	1	首相17日訪朝 「拉致」軸に地ならし 外務省局長 北京で協議開始			1	「拉致」解決 補償の前提 外務省局長 北朝鮮に伝える
	3	首脳会談 拉致 総書記どう判断 補償 金額焦点	2	米議会調査局朝鮮情勢専門官 ラリー・ニクシュ氏に聞く 小泉首相訪朝 「拉致」前進なければ失敗 人名や解放時期の同意 リスク高い「一日会談」			2	首相訪朝 「拉致」進展も
			30	拉致問題 「救う会」が街頭活動 横田さんの母親ら訴え			4	首相訪朝 亀井氏「謝罪要求を」 拉致や不審船 麻生氏、過大な期待にクギ 「拉致」解決大変困難 安倍官房副長官
9.2							1	拉致、ミサイルなど議題 日朝首脳会談 事前協議で合意
							4	拉致解決へ反応探る 拉致事件

(3) 「拉致」面積(図9)

① 読売(Y)の「大声」

図9では「拉致」の頻度と同様に、9/18に棒グラフの突出が顕著である。

頻度荷重(発言の回数)については朝日(A)が最多(21回)であったが、面積荷重においては、読売(Y)が「拉致」という文字を非常に大きく用いていたことが分かる(86.48cm²)。

ここから、読売(Y)は見出し文字に大きな「拉致」を使って報じた(大きな「声」で「拉致」と叫んだ)ことが読みとれる。

② 産経(S)の「呼びかけ」

9/15の産経(S)は、頻度荷重が8回と高かったが、同様に面積についても、大きな「拉致」の面積荷重(29.58cm²)を用いて報道していたことが分かる。

また、同日の朝日(A)の面積荷重は0.32cm²で、「声」の大きさにして、産経(S)と約100倍の差があった。

③ 朝日(A)の「小声」・毎日(M)の「沈黙」

朝日(A)と毎日(M)は、訪朝発表翌日の9/1・2が特徴的である。

朝日(A)は、産経(S)・読売(Y)に比べて「拉致」面積荷重が非常に小さい(2.00cm²)。特に朝日(A)は、前日の8/31に、4紙の中で最も面積荷重が大きかった(26.04

cm²）が、翌日にその「声」が急速に小さくなっている。

毎日（M）については、両日ともに「拉致」を1回も使用しておらず、面積荷重がゼロである。

④ 産経（S）・読売（Y）の「大声」

逆に、産経（S）と読売（Y）は、前日8/31の報道を受けて、ともに「拉致」を大きく報道している。9/1に産経（S）が「拉致」を大きく使用しており（14.60cm²）、9/2では読売（Y）のみが前日の産経（S）とほぼ同じ大きさの「拉致」を用いて報道している（13.92cm²）。

「拉致」の面積荷重に注目すると、以上の違いが読みとれた。

IV—4 各紙の特徴

図10は、各紙の「拉致」頻度荷重と面積荷重の時系列変動を同時に表示した「荷重グラフ」である。

このグラフからは、各新聞社が全期間（8/30—9/30）を通して、それぞれ「拉致」をどのような頻度荷重・面積荷重を用いて伝えていたかを比較することができる。

瞬間沸騰・急速冷凍型

朝日（A）は報道のピーク直後に、「拉致」の頻度・面積がともに減少する傾向がある。この傾向を顕著に示しているのが、訪朝発表直後の9/1・2であり、日朝首脳会談直後の9/19である。

報道のピークにおいては瞬間沸騰的に大きく取り上げるが、その直後に報道量が激減しているため、「瞬間沸騰・急速冷凍型」の報道姿勢をもつといえる。これには報道のピーク直後に、報道を抑制する力が働いていたのかもしれない。

先行報道型

産経（S）は、1日と15日の突出に、「先行報道型」の傾向が見られる。この両日は、ともに他紙に先んじて報道量が増加している。

産経（S）は、「拉致」に関して、率先してアジェンダを設定する役割を果たしていた

8) 9/26・27の両日については、先に触れたように、毎日（M）は「よど号」に関連した「拉致」の見出しが特に多かった。

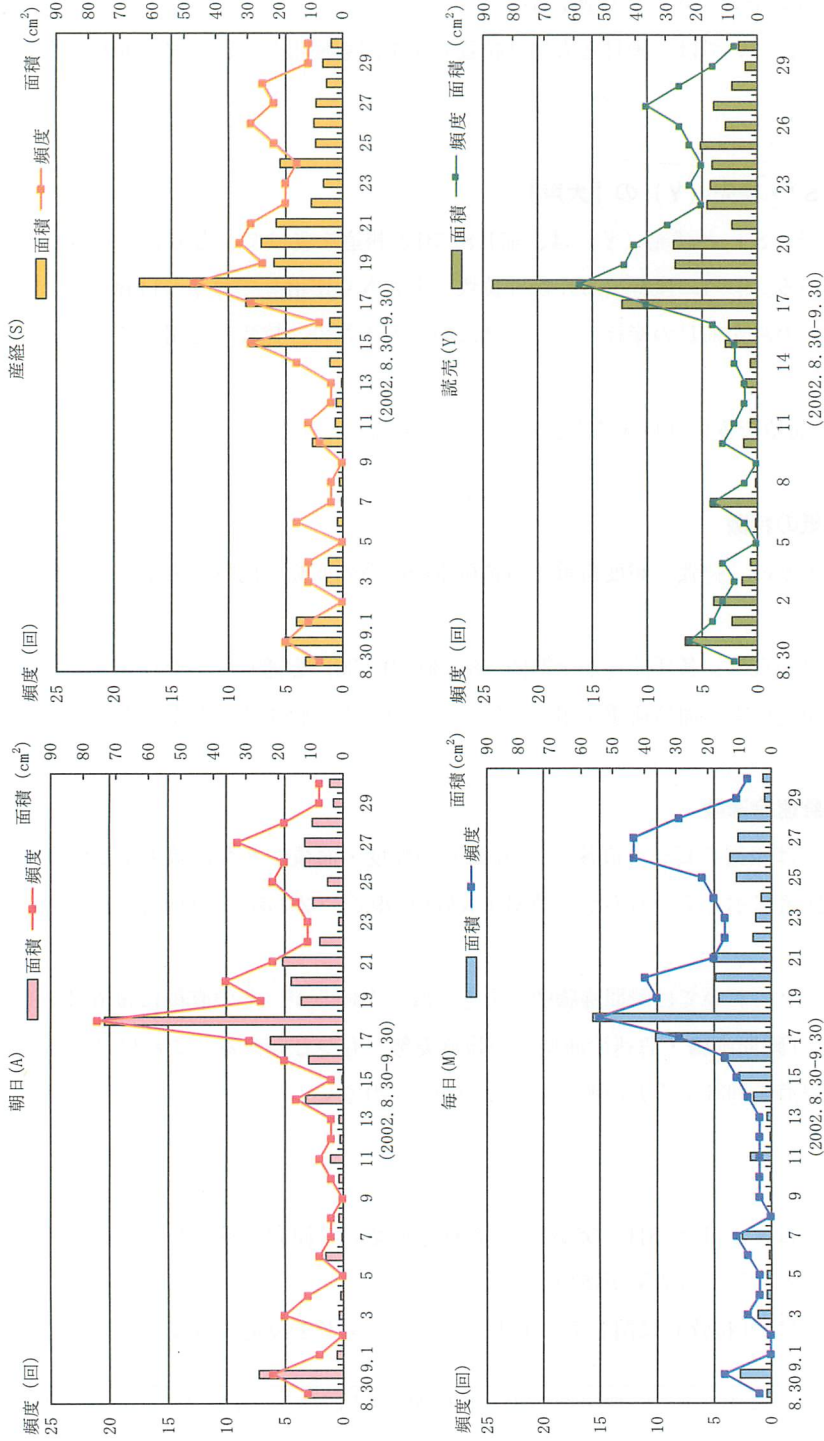


図10 「拉致」 頻度荷重と面積荷重の合成グラフ

といえる。

後追い（日和見）型

毎日（M）は前半では「拉致」問題に関して頻度・面積とも少なめであった。特に、訪朝発表後の1日・2日では、他紙が「拉致」を報じている中、毎日（M）では、まったく報道されていなかった。しかし、後半に後追いをするように増加する傾向が見られる⁹⁾。またバランス重視の傾向も見られる。したがって、「後追い型」の傾向が見て取れる。

荷重持続型（情緒引きずり）型

読売（Y）は全体的に面積荷重が大きい。「拉致」に関しては、読売（Y）は、大きな「声」で報じていた、といえる。

また、報道が集中した後にも、継続して大きく報じる傾向が見られる。たとえば、訪朝発表（8/31）後の9/1・2や、日朝首脳会談（9/18）後の数日の突出は、それをあらわしており、「荷重の温度」が長引く傾向がある。

もちろん、以上の傾向は短期間の限られたデータによる観察にすぎない。それなりのプロフィールが得られたように思われるが、各紙の全体的な特徴を明らかにするには、より詳細な研究が必要であることは言うまでもない⁹⁾。

今後の課題

今回¹⁰⁾は、メディアの送り出す「メッセージの荷重成分」の比較分析に終始するが、次は、購読者が複数の新聞に対して付与している正負の「チャンネル荷重」（信頼と不信の程度）を測定し、購読者の意見との相関関係を調べたい。おそらく、どの新聞を「購読」しているか、いいかえると、どの新聞を「信頼」しているかが、読者がどんな「意見」をもっているか、に大きく影響しているだろう。

9) 本稿に先立って行われた荷重報道研究では、2001年4月に台湾の李登輝元総統の来日をめぐって繰り返ひろげられた4大紙の荷重報道を分析した（木村他2003）。朝日（A）、産経（S）、毎日（M）、読売（Y）の各紙がビザ発給の可否をめぐって報道した記事の荷重成分を、見出しの面積と活字のポイント数にしばって測定し、荷重グラフを作成した。

複数紙の見出し内容を比較分析することで、一見「事実報道」を装っている記事にも、メディアによる暗黙の「荷重バイアス」が存在していることが明らかになった。このバイアスはメディアの隠された（＝読者には意識されにくい）「誘導意思」を反映しており、忠実な購読者に一種の「マインド・コントロール」効果をもたらしていると言っているかもしれない。

10) 本稿は関西大学大学院社会学研究科に在籍する板村・池信両氏が、木村との討論を通じて方向を模索しながらまとめ上げた研究の概要である。手作業で6000本に及ぶ見出しを収集する中で「拉致」の頻度と面積に着目したのは、両氏の創意である。より詳細な議論は、板村の修士論文（板村2003）で展開されている（ed1d302@kansai-u.ac.jp）。

さらに、信頼していない新聞の荷重報道と逆の相関が見出されるものと推測する。読者の意見は、信頼をおいているメディアの荷重報道に影響されるだけでなく、不信を抱いているメディアの荷重報道からは（トリオン変換 $N \times N \rightarrow P$ によって）反対方向に影響されることを私たちの理論枠組みは予想するからである。

文 献

- 安明進（金燦訳）、2000、『北朝鮮拉致工作員』徳間書店。
- 荒木和博、2002、『拉致救出運動の2000日——1996年→2002年』草思社。
- 朝日新聞整理部、1983、『あなたも編集者——広報・社内報・機関誌・会報の作り方』大阪書籍。
- Berelson, B.R., 1952, *Contents Analysis in Communication Research*, New York, Free Press. (=1957, 稲葉三千男・金圭煥訳、「内容分析」『社会心理学講座7 大衆とマスコミュニケーション(3)』みすず書房。)
- 遠藤薫、2002、「複合メディアに媒介された公共性のポリテクス——情報空間の再編成と公共的イベント」遠藤薫編『環境としての情報空間——社会的コミュニケーションプロセスの理論とデザイン』アグネ承風社、34-63。
- 江藤淳、1989、『閉された言語空間——占領軍の検閲と戦後日本』文藝春秋。
- フェルドマン・オフエル、1988、「昭和60年同日選挙における新聞報道の内容分析——社説及び特集記事に見る傾向」『慶応義塾大学新聞研究所年報』31：95-112。
- 藤田真文、1992、「内容分析研究における『量化』の展開と批判」『慶応義塾大学新聞研究所年報』38：53-72。
- 萩原遼、1998（2001）、『北朝鮮に消えた友と私の物語』文藝春秋。
- 蓮池透、2003、『奪還——引き裂かれた二十四年』新潮社。
- 畠奈津子、2002、『拉致の悲劇——日朝交渉への気概を問う』高木書房。
- 林睦子・内藤和美・高橋ゆかり、2003、「新聞報道にみる児童虐待（第2報）論評記事の見出し分析」『群馬パース学園短期大学紀要』5（1）：53-73。
- 堀江湛・小林良彰、1981、「同時選挙をめぐる三大紙の内容分析——大平総理の死去と新聞報道」『新聞学評論』30：219-236。
- 堀江湛・城所洋子、1978、「新自由クラブの躍進と新聞報道——総選挙における新聞報道の内容分析」『新聞研究』319：65-71。
- 茨木正治、1990、「選挙と『政治漫画』——研究動向内容分析」『選挙研究No.5』北樹出版：105-119。
- 池内一、1954、「内容分析の方法について（上）」『東京大学新聞研究所紀要』3：33-46。
- 、1956、「内容分析の方法について（下）」『東京大学新聞研究所紀要』5：47-58。
- 稲垣武、1996、『新聞裏読み逆さ読み——マスコミの生理と病理』草思社。
- 稲山三夫、2002、『拉致被害者と日本人妻を返せ——北朝鮮問題と日本共産党の罪』未来書房。
- 石高健次、1997、『それでもシラを切るのか北朝鮮——日本人拉致 続々届く「生存の証」』光文社。
- 、1998、『金正日の拉致指令』朝日新聞社。
- 板村英典、2003、『「日本人拉致」問題をめぐる4大新聞の荷重報道の比較研究——見出しにあらわれた『拉致』の出現頻度と面積を中心に』関西大学大学院社会学研究科修士論文。
- 伊藤成南・浅沼英範・柏木勇一・徳永正裕・芝沼隆一、1992、「現代整理記者論6 見出し（I）」『新聞

- 研究』494：45-55。
- 、1992、「現代整理記者論7 転機迎える見出し（Ⅱ）」『新聞研究』495：77-86。
- 伊藤陽一、1999、「内容分析の可能性と限界（特集 データサイエンス——第2部 データサイエンスの世界）」『Keio SFC review』3（1）：75-80。
- 伊藤陽一他、1986、「『内容分析』の可能性とその問題点」『新聞学評論』35：238-244。
- 井沢元彦、2003、「『拉致』事件と日本人——なぜ、長期間黙殺されたのか」祥伝社。
- 梶原滉太郎、1986、「新聞の見出しの移り変わり——昭和60年間の概観」『言語生活』410：58-65。
- 木村洋二、2001、「ソシオンの一般理論（Ⅲ）——トリオンからソシオスへ」『関西大学社会学部紀要』32（2）：1-104。
- 木村洋二、2002、「ソシオンの一般理論（Ⅳ）——愛と欲望のキューブ・モデルとソシオネットの力学系」『関西大学社会学部紀要』34（1）：1-44。
- 木村洋二・池信敬子、2002、「ソシオンのネットワークと鏡像のコミュニケーション（1）——密告・盗聴のモードをふくむ会話のマトリックス」『関西大学社会学部紀要』34（1）：45-97。
- 木村洋二・板村英典・池信敬子、2003、「日本人『拉致』問題をめぐる4大新聞の荷重報道の内容分析——多元メディアにおける『現実』の相互構築をめぐって」、第76回日本社会学会報告要旨。
- 木村洋二・林文川・板村英典、2003、「『李登輝来日』をめぐる4大新聞の荷重報道の比較研究」『関西大学社会学部紀要』35（1）：157-210。
- 金相集、2003、「間メディア性とメディア公共圏の変化——韓国『落選運動』の新聞報道とBBS書き込みの比較分析を中心に」『社会学評論』54（2）：175-190。
- 北朝鮮による拉致被害者家族連絡会、2003、『家族』光文社。
- 小林弘忠、1993、『新聞記事ザッピング読解法』自由国民社。
- 古森義久・井沢元彦・稲垣武、2002、『朝日新聞の大研究——国際報道から安全保証・歴史認識まで』扶桑社。
- 小城英子、1999、「神戸小学生殺害事件報道における識者コメントの内容分析——容疑者逮捕前の犯人像に関するコメントの質的分析」『マス・コミュニケーション研究』54：127-140。
- 講談社MOOK編、2003、『横田めぐみは生きている——北朝鮮元工作員安明進が暴いた「日本人拉致」の陰謀』講談社。
- Krippendorff, K., 1980, *Content Analysis: An Introduction to Its Methodology*, Beverly Hills: Sage Publications. (=1989、三上俊治・椎野信雄・橋元良明訳『メッセージ分析の技法——「内容分析」への招待』勁草書房。)
- 黒田勝弘、2003、『ソウルが平壤になる！』ビジネス社。
- 黒須俊夫、2000、「松本サリン事件報道におけるメディアの実態（1）——新聞見出しからみた報道枠組みの変容について」『群馬大学社会情報学部研究論集』7：169-223。
- 共同通信社外信部、1989、「海外主要紙の見出しにみる天皇報道」『新聞研究』454：41-46。
- McQuail, D., 1983, *Mass Communication Theory: An Introduction*, Sage Publications. (=1985、竹内郁郎・三上俊治・竹下俊郎・水野博介訳『マスコミュニケーションの理論』新曜社。)
- 真鍋一史、1975、「新聞社説の内容分析——石油危機・物不足事件を手がかりとして」『新聞研究』287：54-59。
- 三樹精吉、1966、『新聞の編集と整理』現代ジャーナリズム出版会。
- 水内純清、2000、「新聞の『見出し』による日本語教育」『東アジア日本語教育・日本文化研究』2：393-399。
- 村上孝止、1983、「新聞社説の内容分析調査」『新聞研究』387：72-77。

- 村松素子、1982、「マス・コミュニケーションの内容」竹内郁郎・児島和人編『現代マス・コミュニケーション論』有斐閣、167-197。
- 中井久夫、1984、『中井久夫著作集1 精神医学の経験 分裂病』岩崎学術出版社。
- 西岡力、1998、『闇に挑む！——拉致、飢餓、慰安婦、反日をどう把握するか』徳間書店。
- 野口崇子、2002、「『見出し』の“文法”——解説への手引きと諸問題」『講座日本語教育』38：94-124。
- 緒方良彦、1978、「新聞記事索引と紙面見出し」『ドクメンテーション研究』28（3）：93-98。
- 大橋弘、2002、『新聞論をこえて』風媒社。
- 太田昌国、2003、『「拉致」異論—あふれ出る「日本人の物語」から離れて』太田出版。
- 李策、2003、『激震！朝鮮総連の内幕——「9・17拉致自白」で変わったのか』小学館。
- 李友情（李英和訳）、2003、『マンガ金正日入門——北朝鮮将軍様の真実』飛鳥新社。
- 李英和、1996（1999）、『北朝鮮 秘密集会の夜——留学生が明かす“素顔”の祖国』文藝春秋。
——、2003、『極秘潜入——金正日政権深奥からの決死レポート』小学館。
- 崔銀姫・申相玉、1988、『北朝鮮の内幕 闇からの罅——拉致・監禁・脱走（上）（下）』池田書店。
- 佐々淳行、1999、『謎の独裁者金正日——テポドン謀報テロ拉致』文藝春秋。
- 佐藤勝巳、2002、『拉致家族「金正日との戦い」全軌跡』小学館。
——、2002、『日本外交はなぜ朝鮮半島に弱いのか』草思社。
- 朱京偉、1992、「量的構造から見た新聞見出し」文化言語学編集委員会、『文化言語学——その提言と建設』三省堂、275-290。
- 新聞整理研究会、1966、『新聞整理の研究』日本新聞協会。
——、1994、『新編 新聞整理の研究』日本新聞協会。
- SPA！特別編集ブックレット、2002、『メディアが黙殺した〈拉致事件〉25年間の封印を解く！！』扶桑社。
- 高世仁、1999、『娘をかえせ息子をかえせ——北朝鮮拉致事件の真相』旬報社。
——、2002、『拉致——北朝鮮の国家犯罪』講談社。
- 武市英雄・松本修二郎・山田實・山中正剛、1976、「東京都知事選挙（1975年）をめぐる新聞紙面の分析——朝日・毎日・読売・サンケイの四紙を中心にして」『新聞学評論』25：48-67。
- 竹内郁郎、1998、『メディアの議題設定機能』学文社。
- 田村紀雄他、1991、「『国際化』時代の地方新聞の対応——「内容分析」手法に依る考察」『東京経大会誌』170：53-85。
- 田中哲哉、1998、「新聞の見出しの文法的特徴と機能」『龍谷大学国際センター研究年報』7：67-77。
- 田崎篤郎・児島和人編、2003、『マス・コミュニケーション効果研究の展開 改訂新版』北樹出版。
- 徳田克己・遠藤なおこ、1991、「新聞の見出しにおける障害に関連する用語の出現頻度の分析——朝日新聞を例として」『計量国語学』18（1）：26-34。
- 和田春樹、2002、『朝鮮有事を望むのか——不審船・拉致疑惑・有事立法を考える』彩流社。
- 山際澄夫、2002、『拉致の海流——個人も国も売った政治とメディア』恒文社21。
- 山本将文・大峽弘士、2002、『北朝鮮激撮！——拉致と飢餓の真相にせまる』扶桑社。
- 横田早紀江、2003、『めぐみ、お母さんがきっと助けてあげる』草思社。
- 吉岡至・藤田真文・塚本晴二郎、1994、「アジアにおける国際情報システムの実態——『東京サミット』の新聞報道に関する内容分析」『新聞研究』511：65-74。

資料 「拉致」を含む見出し一覧

注) ・「ページ」のeは夕刊を示す
 ・朝日・毎日・読売新聞は縮刷版の面積を4倍して原紙サイズに合わせた(単位cm²)

ページ	朝日新聞		産経新聞		毎日新聞		読売新聞		
	見出し	【拉致】面積	見出し	【拉致】面積	見出し	【拉致】面積	見出し	【拉致】面積	
830	e-2 拉致問題・安全確保、急展開か	2.4	小泉首相 17日訪朝 金総書記と会談へ	6.46	小泉首相訪朝 北朝鮮、茶帳と印象付け	e-3	首相 来月訪朝 金総書記と会談へ	e-1	首相 来月訪朝 金総書記と会談へ
e-23	拉致問題 進展の可能性 首相訪朝へ 被害者の家族は期待 「難い」と見守る	8.16	【国交】「拉致」打開めどす 有本さんと面会も	5.28	北朝鮮訪朝 17日訪朝 拉致被害者家族に驚き	e-15	「トップ会議」に期待 小泉首相 17日訪朝	1.28	17日訪朝 【拉致】など打開する
	拉致解決めどか軍機外交が奏功 小北米政夫・慶応大学教授(国際政治論) の話	0.32	小泉首相 17日訪朝 拉致被害者家族に驚き	5.28	【トップ会議」に期待 小泉首相 17日訪朝		「今年こそ安否が…」 拉致疑惑	e-19	首相来月訪朝 【今年こそ安否が…】 拉致疑惑
831	1 拉致「など本格折衝へ」 局長今日訪中 北朝鮮側と中国で 首相訪朝を正式発表	10.08	【拉致】など本格折衝へ 局長今日訪中 北朝鮮側と中国で 首相訪朝を正式発表	10.08	1 首相「政治生命懸ける」 訪朝で拉致対応「見極め」 成果なければ善処に	3	1 首相「政治生命懸ける」 訪朝で拉致対応「見極め」 成果なければ善処に	2	2 成果不透明 リスク負う 拉致解決「前向き感触ない」 無原則な妥協は禁物
	2 北朝鮮の出方見えぬまま 拉致問題に首組	0.24	【拉致】譲歩必要ない 7 拉致取り組み不透明 北方領土のこの難不安	4.56	8 拉致「解決」は霧の中 「連れて帰ると言って」	7	8 拉致「解決」は霧の中 「連れて帰ると言って」	3	3 拉致問題と過去の清算 【解決】は霧の中
	32 何らかの動きも 伊互見氏 渡藤氏 安保解決に留意 ・拉致問題は	3.64	北朝鮮に拉致された日本人を救出するため の宗国協議会の荒木和博・事務局長の話	0.24	26 北朝鮮に拉致された日本人を救出するため の宗国協議会の荒木和博・事務局長の話	26	26 北朝鮮に拉致された日本人を救出ため の宗国協議会の荒木和博・事務局長の話	10	10 【拉致問題】解決が前提 高村
	34 【全容解明に期待も】 拉致問題調査当局	1.8	【全容解明に期待も】 拉致問題調査当局	1.8	31	31	13 首相訪朝 日米中露の視線で動き始めた半島外交 拉致など懸案の包括的妥協を日拒せ	13	首相訪朝 日米中露の視線で動き始めた半島外交 拉致など懸案の包括的妥協を日拒せ
	35 拉致解決 一歩へ折り返り 日朝首脳会議 母「帰らぬと帰って」 教う会「毅然と交渉を」	9.68	【全容解明に期待も】 拉致問題調査当局	0.6	31	31	35 答え「待たず」 e-1 【拉致】など事前折衝	35	【答え】待たず 【拉致】など事前折衝
91	2 名譽教授 【拉致】解決、期待できぬ	1.28	1 首相17日訪朝 【拉致】軸に地ならし 外務省局長 北京で協議開始	8.7	1 首相17日訪朝 【拉致】軸に地ならし 外務省局長 北京で協議開始	1	1 【拉致】解決 補償の前提	1	【拉致】解決 補償の前提
	3 拉致 補償 金額焦点	0.72	2 米連合露米朝朝鮮情勢専門家 ラリニョニクス氏に聞く 小泉首相訪朝 【拉致】前進なければ失敗 人名や解放時間の同意 リスク高い「一日会議」	5.72	2 米連合露米朝朝鮮情勢専門家 ラリニョニクス氏に聞く 小泉首相訪朝 【拉致】前進なければ失敗 人名や解放時間の同意 リスク高い「一日会議」	2	2 首相訪朝 北朝鮮に伝える	2	首相訪朝 北朝鮮に伝える
			30 拉致問題 【教う会】が街頭活動 権田さんの母親ら訴え	0.18	30 拉致問題 【教う会】が街頭活動 権田さんの母親ら訴え	30	4 首相訪朝 電井氏「謝罪要求を」 拉致や不審船 麻生氏、過大な期待にクギ	4	首相訪朝 電井氏「謝罪要求を」 拉致や不審船 麻生氏、過大な期待にクギ 【拉致】解決大変困難 安倍官房副長官
92							1	1 拉致、ミサイルなど議題 日朝首脳会議	3.96

93	1	日朝、「改善期待」53% 「拉致解決進む」28% 内閣支持51%に上昇 本社世論調査	0.32	1	拉致問題進展のみぞす 首相	2.42	1	拉致「安否確認、入り口に」 国交正常化 全員救出が前提 拉致解決 首相に申し入れ	3.92	4	事前協議で合意 拉致解決へ反応 拉致事件	9.36
	4	11人の韓国現職と懇話へ 拉致解決首相に 本社世論調査 質問と回答 ・今回の小泉首相の北朝鮮訪問で、日本人の拉致問題の解明が進むと思いますか。そうは思いませんか。	0.24	e-13	毅然とした姿勢を 拉致解決首相に要求	0.28	e-4		0.24	e-1	不審船 国籍特定 首相訪朝後に先送り 「拉致」影響を配慮 拉致被害者委員会救出を 繰進、首相に要請へ	4.2 0.72
	e-2	国交の正常化は拉致解決が前提	0.32									
94	2	拉致問題の進展が正常化の前提	0.32	4	首相	2.88	2	日朝交渉 再開は総合判断で 政府方針 拉致解決は正常化時に		4	首相、拉致被害者家族と面会検討 拉致問題解決期工けてきす 首相改めて表明	1.28 0.52
	4	被害者の家族と訪朝前に面談を	0.24		「拉致」棚上げせず 日朝首脳会談控え 日本の姿勢改めを示す 拉致問題関係先に 拉致が申し入れ	0.55			1.28	7	日本人拉致の国際手配者 金総務記に忠誠 身柄引き渡し改めて拒否?	0.84
	13	どんな国? 歴史と体制は 軍事威圧の極制国家、体制生き残りへ対米 国民の暮らしの状態は 経済と心腹でエネルギー・食糧不足。危機 打開へ経済改革 金正日総書記ってどんな人 金正日総書記ってどんな人 金正日総書記ってどんな人 日朝首脳会談の内容は、 最大の焦点は拉致、過去精算も含め包括的 に	0.32		「拉致」進展なくとも国交正常化交渉続け 外務省幹部が発言	1.04						
95			0.32				1	日本人拉致 数人の安否伝達の公算 首相訪朝時に 北朝鮮側から	1.28			
96	1	ミサイル発射強硬継続 罰罪は「村山談話」 拉致 日朝「共同宣言」案の既有利明 拉致、必要なのは難航	5.12	2	「拉致」での立場金総務記に伝達	0.32	1	拉致問題進展北通しを示唆	0.32	34	神戸の男性、拉致された疑い 「救う会」会見 78年ウィーンで北朝鮮に	0.6
	38	「神戸の男性も拉致の可能性」 救援団体が会見	0.32	5	首相に露大総領説明 中曾根氏、首相に注文「拉致問題」 総務経理省会談	0.5	28	「拉致被害者もつという」 会見で「救う会」	0.32			
				30	「12人目」写真公開 救う会と拉致解決 昭和59年、神戸の男性 16日に繰り上げ開催	0.55 0.36						
97	4	拉致被害者の家族と面談へ 福田官房長官	0.32	15	拉致問題委員会首相訪朝前に 16日に繰り上げ開催	0.32	1	「拉致」安否を提示 アーミネーワ国際副長官と会見	7.48	1	「拉致」安否を提示	1.3
							3	「拉致被害者家族に福田氏が16日面会	0.24	2	「拉致」「過去の経緯」	1.32
							10	「正常化」国際社会も関心 拉致問題 安倍案 精査を	1.28	4	首相、野党4党と会談 鳩山氏 「拉致」進展だけでは不十分 拉致被害者家族と官房長官面会へ	
98	1	拉致問題 韓国は正常化までに 首相方針 過去精算と一括	1.28	30	拉致被害者救出を 有本さん両親ら大阪で署名活動	1.05				3	日朝首脳会談 「安保」踏み込む日本 「ミサイル」「核」拉致と並ぶ主要議題に	0.72

「拉致」問題をめぐる4大新聞の荷重報道（木村・板村・池田）

9/9	3	「拉致」の進展北要」強調 日本側、日朝事前折衝で	1.28	e-1	拉致問題 北朝が協議提案 首相 「状況の変化は好機」 よど号犯案「拉致」で転機へ 「北」工作員と政で接触？ 審視庁	1.05	1	0.32	e-1	拉致問題進展の懸念強く示唆 訪朝で小泉首相 拉致問題で日本向き対応促す 首脳会議の議題決定	0.32	4	0.72	「拉致」など議題確認 首脳会議 日朝事前協議 よど号グループ 小西容疑者の妻 今夜飯田へ 警視庁逮捕方針 拉致事件を速及 拉致	
9/11	1	首相訪朝 食糧支援 表明せぬ方針 不透明の裁判考慮 拉致などに絞り懸念	1.28	30	拉致関連・米田国会長に聞く 11人全員帰すは当然 拉致事件 トップ会議で完全解決を	1.2	27	6.48	2	拉致の関 「よど号」妻も人権国 「有本さん知らぬ」 二女 「偽名やめて」 日朝首脳会議で拉致請求求める	0.32	2	0.32	拉致解決へ強い決意 首相 米「外交訴訟」で表明へ 「拉致」全面否定	
	35	拉致関与を全面否定 小西容疑者	2.64	31	子供5人全員 拉致事件「所在が早く分かれば…」	0.72	5	0.32	39			0.32			
9/12	3	平行情とどった拉致・ミヤイル・「過去の首脳対話で打開なるか」	0.96	19	拉致問題解決が国際正常化の大原則 相手の出方によってはおさつと韓国を ・フアンジュ政権の北風政策 ・関が仕掛けられていると疑え ・朝露外交はナンセンス	2.04							0.24	訪朝の首相は徹的に 拉致被害の家族が会見	
9/13	2	日米首脳会議 北朝謝罪を認識に差		19	・（株替）被拉致者への賠償金は当然	0.32	e-2	1.28	1	「拉致」表記は徹的に 日朝共同文書案の発給表明	4.2				
9/14	1	米「拉致」より核問題重視 日朝交渉再開見通し	1.28	4	拉致問題説明首相へ要望書 新参閣事	0.32	2	0.32	2	被害者家族と面会せず 首相訪朝前 拉致協議進めからは批判	0.32				
	3	首相訪朝 兵艦と兵力一番の関心 拉致と清算何より優先	7.48	e-1	草創時期を前に拉致進運が総会 小泉首相 「拉致問題 進展見通し」 17日の訪朝 国境兵力削減要求へ	0.32	e-1	5.28	e-1	「拉致」進展に自信 首相、日朝会議見通し	0.32	2			
9/15	4	拉致問題の解決菅房長官に要請 新参閣事	1.28	e-9	・北朝鮮訪朝での拉致問題の進展	0.24									
	e-1	首相、「拉致」進展に期待 記者会見	2.64												
9/15	35	日交参院開に自信 拉致問題の家族首相に期待	0.32	1	拉致被害11人 安否回答 年内が期限 日朝会議首相要求 国際正常化へ前提	1.76	1	8.84	2	拉致問題で「遺憾の意」 米、関心はミヤイルに 拉致優先で運るより懸念 真意 どこに 被害者家族ら不安と怒り	0.72	2	0.72	金総書記 会議の主事権限う 審問会 拉致「大きくない問題」 拉致11人安否は再会は 家族 すがら悪い	
					(社説) 拉致事件 救出は国家の重い責務 両朝間にとって歴史的好機 ・最低限韓国との協力を ・金総書記も英断を	0.91	27	0.6	39						
	3	「拉致」進展 どう見極め	8.64												
	23	拉致家族と本紙報道 家族ら「介護こそ」 なぜ日本人を拉致するのか	3												

9/16	1	日朝交渉時間 「拉致」進展が情報 政府確認 関係感格上げも	3.12	1	対日、対南工作や選挙活動 拉致の詳細、明らかになるケースも 暗号指令受け実行 「羨望祝い」偽装「北でアルバイト」勧誘 拉致呼びかけ 有本さん両親ら梅戸で署名活動	0.78 14.04	7.8	1	日朝会議 拉致、首脳だけで交渉も 首相ら 包括的協議確認	5.28	1	「拉致」全面解決求める 日朝首脳会談 正常化の前段階 政府が対応方針	7.8
9/17	11	首相訪朝 成否判断の物差しは？ 東大教授（日本政治外交史） 北岡伸一氏に聞く 北東アジアの状況はくせなか 拉致問題 まずは「進展」を ・条件 日本に有利 ・世論、政府より強硬 ・冷静に「目的」断れ ・国民に新しい実感	4.16	2	日朝首脳会談 「北朝鮮、米からの期待」 韓国に命の元北朝鮮外交官に聞く 「拉致」動く可能性高い 「首相に直接話さない」	0.24 0.96	0.32	35	「運命の日」見つめる 拉致被害の7家族 支援者らと会合	5.04	3	「訪朝の成否判断」 ・拉致 ・「拉致被害者家族と」	0.96
9/17	1	拉致や過労清算総合判断 菅原長官、家族に ・（拉致）拉致問題では妥協をしない ・拉致8家族節内で訴え	3.64 0.72	3	拉致犠牲者なら退席を 被害者家族ら首相に要望 日朝首脳会談表決時の菅原 韓国大統領秘書室の助言 林将校連し金総書記に 拉致は「急進派のせい」補償は経済協力で	0.72 0.32 3.36	3.6	3	「拉致」会談冒頭に 首相きょう訪朝 「拉致」被害の被害者 不信な電波「点」が「線」に 78年3つの事件 近くて工務組確認	6.24	1	「拉致」会談冒頭に 首相きょう訪朝 「拉致」被害の被害者 不信な電波「点」が「線」に 78年3つの事件 近くて工務組確認	9.88
9/17	e-1	日朝首脳が初会談 「近くて遠い国に終止符を」総書記 拉致など懸案協議 「運命の日が来た」 拉致解決、折る思い 総書記演説は日本通 拉致疑惑打開向け一役も	8.4 2.64	5	日朝首脳が初会談 「近くて遠い国に終止符を」総書記 拉致など懸案協議 「運命の日が来た」 拉致解決、折る思い 総書記演説は日本通 拉致疑惑打開向け一役も	0.72 2.64	2.2 0.4 1.28	4	日朝首脳が初会談 きょう日朝首脳会談 秘機運営に影響 「拉致」巡り注文噴出 ・「拉致」全面解決求めよ	3.52	26	「拉致被害者家族」 首相「拉致」解決要求 北朝鮮、午後10時	2.2 0.4 1.28
9/17	e-1	国民大集会に2100人 首相 金総書記と会談 「拉致」解決迫る 有本さんら一時帰国情報も	13.5	e-1	国民大集会に2100人 首相 金総書記と会談 「拉致」解決迫る 有本さんら一時帰国情報も	0.4	0.6	39	「拉致被害者家族」 首相「拉致」解決要求 金総書記 「遠い国に終止符を」 日朝、式典抜き実務交渉	0.4	e-2	「拉致被害者家族」 首相「拉致」解決要求 金総書記 「遠い国に終止符を」 日朝、式典抜き実務交渉	0.6

「拉致」問題をめぐる4大新聞の荷重報道(木村・板村・池信)

日付	記事内容	掲載紙	掲載頁数	掲載回数	掲載期間	掲載回数	掲載期間	掲載頁数	掲載回数	掲載期間	掲載頁数	掲載回数	掲載期間	掲載頁数	掲載回数	掲載期間	掲載頁数	掲載回数	掲載期間	掲載頁数
9/18	1 拉致、8人死亡5人生存 金総書記、認め謝罪 ・拉致、不審船	24,84	1	1	朝日新聞	1	1	24	1	1	24	1	1	24	1	1	24	1	1	24
	2 拉致家族と首脳面談 (社説) 日朝首脳面談 恐しすぎる拉致の結末 強化低正常化交渉を	0.6 0.6	2	2	朝日新聞	2	2	3.24	2	2	3.24	2	2	3.24	2	2	3.24	2	2	3.24
	3 拉致、8人死亡5人生存 金総書記、認め謝罪 ・拉致、不審船	0.24 13.2	3	3	朝日新聞	3	3	16.32	3	3	16.32	3	3	16.32	3	3	16.32	3	3	16.32
	4 拉致真相相お道及を 野党	2.64	4	4	朝日新聞	4	4	0.32	4	4	0.32	4	4	0.32	4	4	0.32	4	4	0.32
	5 目的は達成したか 日本の悪感通ひ拉致の反発危く	1.44	5	5	朝日新聞	5	5	2.1	5	5	2.1	5	5	2.1	5	5	2.1	5	5	2.1
	6 拉致「告白」の真意 核廃止も説明か変化一気に促せ	1.44	6	6	朝日新聞	6	6	2.16	6	6	2.16	6	6	2.16	6	6	2.16	6	6	2.16
	7 拉致問題 李氏	0.24	7	7	朝日新聞	7	7	0.45	7	7	0.45	7	7	0.45	7	7	0.45	7	7	0.45
	8 国家マロの厳しい現美 小牧氏 真相を究明して帰償を ・拉致問題	1.08	8	8	朝日新聞	8	8	1.05	8	8	1.05	8	8	1.05	8	8	1.05	8	8	1.05
	9 拉致「日本語学習のため」 金総書記「理由」を語る 「特殊機関一部に要請主義」	6.6	9	9	朝日新聞	9	9	0.24	9	9	0.24	9	9	0.24	9	9	0.24	9	9	0.24
	35 死「信じぬ」「認めぬ」 北朝鮮拉致被害者 安告南明 朝田さんの郵内の知人 驚き、怒り、不信 「拉致がなあ」	0.24 3.36	35	35	朝日新聞	35	35	1.89	35	35	1.89	35	35	1.89	35	35	1.89	35	35	1.89
	37 言葉交う在日社会 拉致の事実、怒り、むなしさ 「国家として責任取って」 日朝首脳面談	3.36	37	37	朝日新聞	37	37	4.08	37	37	4.08	37	37	4.08	37	37	4.08	37	37	4.08
	38 死「信じぬ」「認めぬ」 北朝鮮拉致被害者 安告南明 朝田さんの郵内の知人 驚き、怒り、不信 「拉致がなあ」	0.32 0.6	38	38	朝日新聞	38	38	2.53	38	38	2.53	38	38	2.53	38	38	2.53	38	38	2.53
e-1	拉致事件 首相、家族と27日面会 安否情報	1.44	e-1	e-1	朝日新聞	e-1	e-1	1.53	e-1	e-1	1.53	e-1	e-1	1.53	e-1	e-1	1.53	e-1	e-1	1.53
e-14	公安当局 支障引き出し思い不安 札幌出身 元日大生、 熊本出身 松本さん 拉致認定外の2人浮上	3	e-14	e-14	朝日新聞	e-14	e-14	3	e-14	e-14	3	e-14	e-14	3	e-14	e-14	3	e-14	e-14	3
e-23	金総書記、緊張の様子 拉致家族「全員の安否を」 小泉・金総談 「見ているのが怖い」 現地映像にきき付け	13.44	e-23	e-23	朝日新聞	e-23	e-23	13.44	e-23	e-23	13.44	e-23	e-23	13.44	e-23	e-23	13.44	e-23	e-23	13.44
e-23	金総書記、緊張の様子 拉致家族「全員の安否を」 小泉・金総談 「見ているのが怖い」 現地映像にきき付け	13.44	e-23	e-23	朝日新聞	e-23	e-23	13.44	e-23	e-23	13.44	e-23	e-23	13.44	e-23	e-23	13.44	e-23	e-23	13.44
e-23	金総書記、緊張の様子 拉致家族「全員の安否を」 小泉・金総談 「見ているのが怖い」 現地映像にきき付け	13.44	e-23	e-23	朝日新聞	e-23	e-23	13.44	e-23	e-23	13.44	e-23	e-23	13.44	e-23	e-23	13.44	e-23	e-23	13.44

e-2	詳細を直接説明 米、橋本幹固さま 拉致家族に支援も 日朝自衛隊談 拉致知らされた国民 北朝鮮メディア報道せず	2	3.84	2	e-9	交渉はどうあるべきか 眠れぬ夜明け ・拉致事件家族	e-19	「拉致」なお伝えず 北朝鮮 拉致家族 一夜明け、怒りも新たな 官房副長官面会 批判の声次々	0.72	2.6	e-2	0.72				
9/19	1 拉致2人、同じ日死亡 安否のリスト死亡の日付 政府公表せず 2 日朝会談「評価」81% 本社緊急世論調査 拉致「納得できぬ」76% 3 日朝国交正常化 拉致初めで新たな難問 責任所在、補償など 4 「拉致」表現なし 政府、評面に安心感 本社世論調査 拉致「納得」には不安 5 在日拉致者問題「拉致説明後」に 6 拉致発着者家族 情報小出し 政府に不満 7 「隠している感じ」	5.72	1.28	0.24	0.72	0.32	0.72	1 拉致被害者 「韓国」「韓国」要求 政府方針 家族、月内にも訪朝 2 死の真相は？韓国は？ 「拉致」交渉再開ハードル高く 3 早期に行動計画拉致交渉が決定 （社説）拉致事件特報 ***すり寄り外交**を繰り返す** 4 日朝インテリジェン 官房副長官 安倍晋三氏 ・首相の抗議で拉致「告白」** 5 拉致 謝罪韓国に拉致 留 家族も常駐要求 北メディア「拉致」沈黙 6 **（拉致）あまりに残酷な拉致事件の結末 7 有本悠子さん拉致実行犯 「よど号」安部守衛者を立件へ e-19 よど号グループ 有本さんら拉致後3人死亡 警察当局強い関心 内部対立で修正？	1	0.6	1	0.72				
					5.4	1 拉致事件 詳細、交渉再開前に 死因、時期 北朝鮮へ要求 2 会談直前の報道…総句 和当手付かず首相談話 「拉致だった」総論記者白 3 拉致事件に感情的報復するな 4 拉致事件 歴代内閣は高ひ藤 改進黨派と並行し 「拉致」反森知らぬまま 平壤 5 不明確な「拉致」文言 李氏 日本、ほぼ要求通り 小此木氏 署名は賢明な選択 新たな対話求め 小此木氏 非を認めた韓報聞いただけ 武貞氏 謝罪には総評記りの計算 李氏 日本政府も最大限の配慮を ・拉致事件 6 拉致事件 有本さん88年11月死亡 リストに日付明記 石岡さんも同じ日 e-2 「本日朝日記」 公開 拉致議運事務局長 平沢勝茂・衆議議員 7 拉致事件家族 情報小出し、政府に不満 「北の発表、信用できぬ」	0.5	0.5	3	4.48	3	0.32	0.32			
					2.53	1.84	9.62	1.28	14	1.28	1.28	13	38	e-19	1	0.72
					0.72	0.32	0.72	e-15	1	0.72	1	1	1	1	1	0.72
9/20	1 8人、20～40代で「死亡」 拉致後1～16年で 外務省	5.12	9.86	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0.72

「拉致」問題をめぐる4大新聞の荷重報道(木村・板村・池田)

年月日	年日、各家族に伝達 (社説) 拉致事件 事業究明は遅れない	0.32	3	1.6	3	0.6	2
2	(社説) 拉致事件 事業究明は遅れない	0.32	3	1.6	3	0.6	2
4	拉致リスト問題 安倍式発言 (朝野)	0.24 0.72	4	0.5 0.32	4		3
7	拉致の実体解明「最大限に努力」 首相、葬式に語る	0.32	7	0.32	4		3.12 0.32
7	朝鮮戦争で27万6000人 帰還後486人… 拉致解決、韓国でも訴え	4.4	19	1.12 0.32	5		4
14	・(社説) 拉致の実態に足踏の喪失感	0.32	e-2	0.72			
15	・北朝鮮 その時何かが暴く不信	0.72					
39	拉致被害者8人「死亡日」 小泉首相の北朝鮮訪問 相殺でもめ 拉致と植民地支配	2.64 1.28	e-15 e-13	1.28 9.88	7 e-1		0.32 0.84 1.28
9/21	平壤宣言 拉致明記求めず署名 衆院委で外務省答弁 [死亡日隠し] 謝罪 リスト問題大変に反省 田中局長 ・拉致、非公式リスト叩問 78年夏、福井・新潟、鹿児島・富山 当時 多数の豪華船出現 拉致究明優先交渉長期化も 外相 [まだ入り口手前] 77年石川で工作員のボートに… [舟隠し] 52歳とこに 拉致被害者久米裕さん [監視員でもうかる]と誘われ 無口で気味、今77歳 よど号グループ	2.64 0.24 9.36 5.04	1 3 4	4.16 1.05	2 5 e-1		1.28 2.2 0.6 1.28 0.72 1.44 0.84
e-15	朝鮮戦争で27万6000人 帰還後486人… 拉致解決、韓国でも訴え	4.4	19	1.12 0.32	5		4
e-15	朝鮮戦争で27万6000人 帰還後486人… 拉致解決、韓国でも訴え	4.4	19	1.12 0.32	5		4
e-15	朝鮮戦争で27万6000人 帰還後486人… 拉致解決、韓国でも訴え	4.4	19	1.12 0.32	5		4
e-15	朝鮮戦争で27万6000人 帰還後486人… 拉致解決、韓国でも訴え	4.4	19	1.12 0.32	5		4

922	拉致関手を改めて肯定 赤木祥雄著	0.32	e-11	拉致関手を改めて肯定 よと号犯罪明文	0.45	1	1	日朝国交交渉 11月以降すれ込みも 政府 「拉致強制が先決」 外務省責任者権正女処分を 拉致機連通事務局長 拉致問題を徹して 視野を広げたシニア相へ 北朝鮮本気こそまで	2.52	2	「拉致被害者支援室」 先送り 外務省は帰籍できぬ 家族ら反発で ・拉致の8人死に 日朝インテリジェ 当時、拉致知らなかった 国交交渉と拉致巡り意見割れる 公明交際局長会	0.72
		2.2		平康 管理下で集団生活 韓国情報筋	6.38							
35	拉致報道も提起 北朝鮮に見切られた？ よと号メンバーの疑い 3人拉致 関与の疑い よと号メンバーの疑い 追跡請求を準備 朝鮮総連幹部「心から真実」 拉致事件に言及	4.8		日朝交渉 来月再開は困難 外務省 「拉致」表明を最優先 「北」へ本音申し入れ 行動計画 外務省責任者追及も 北朝鮮拉致事件解決の昭和53年 日本国内の組織に指示か 拉致被害者に民間の意見表明 松海上院委員長	1.36 0.36 1.52 0.32	3	27					
		0.24	2	拉致機連通 「北」へ本音申し入れ 行動計画 外務省責任者追及も	0.36							
923	拉致事件 家族訪問へ調整 首脳会談後 日朝、初の実務者協議 2 拉致で賠償請求容認も「検討」 ・(拉致) 拉致問題含め交渉で解明を	0.72 0.32 0.32	1 2 8	1 拉致事件 生死の証書「北」に要求 政府、賠償請求の方針 宣言と口約束の本一致 「拉致解決」置き去りの不安 2 (社説) 拉致事件と教育 授業で取り上げる必要も 11 拉致事件	1.36 2.42 0.5 1.47	1	29	1 外務省局長が北朝鮮側と折衝 拉致事件 拉致被害者の帰国法的検討を開始 安倍官房副長官 3 拉致に反発強く 外交姿勢 「北朝鮮は変化」67% 拉致帰国隊の支援継続決定へ 福井・小浜	0.24 0.32 3.82 0.4	1 2 3 13 15	0.72 0.72 0.72 2 1.12	
		0.32			2.42							
		0.32			0.5							
		1.2			1.47							
924	79年死亡市川さん「90年目撃」なぜ 「安否情報 信じられぬ」 「秋」会 虚偽との見解発表 拉致事件、正工作員の母と矛盾 新たな拉致調査要請も 北朝鮮に官房長官	0.48	e-1 e-19	13 拉致事件 拉致被害者家族 「一刻も早く訪問したい」 胸中複雑 「今行っても意味がない」 「日本に送り届けられるべき」「うそを暴くために」 e-1 「拉致」生存者との面談詳述 3組が合わぬ仕組み 確信的な答えは疑問 「親に会いいたい」一致 熊本公使 写真撮れず説明 もしや拉致? 昭和52年に行方不明米子の女性	1.47 3.2 5.5 9.62	2	31	「拉致」で目覚める世論 新潟、甲府の人も 拉致疑念 「風」吹で生死決められては …拉致家族 疑念、不信感 「親に早く会いたい」 拉致生存4人 面会の公表に満ちず 拉致疑念 さらに2人	0.72 0.6 0.48 0.72 0.72	1 2 39 e-19	0.72 0.72 10.8 0.4	
		1.2			5.5							
		0.48			9.62							

「拉致」問題をめぐる4大新聞の荷重報道（木村・板村・池信）

9/25	9/26		家族「安否確認を」		1.05		1.28		0.72	
3	3	3	1	1	0.32	1	1.05	1	1.28	0.72
			0.32	0.32	0.32	0.32	0.32	0.32	0.32	0.32
			0.72	0.72	0.72	0.72	0.72	0.72	0.72	0.72
e-1	e-1	e-1	e-1	e-1	1.36	e-1	1.36	e-1	1.28	4.2
e-2	e-2	e-2	e-2	e-2	1.8	e-2	1.8	e-2	0.4	0.4
e-19	e-19	e-19	e-19	e-19	1.5	e-9	1.5	e-9	2.2	2.2
					2.2	1	2.2	1	1.28	4.8
					0.5	2	0.5	2	0.72	0.6
					2.64	3	2.64	3	0.24	0.84
					0.5	4	0.5	4	5.32	1.44
					0.39	3	0.39	3	1.6	1.6
					2.09	31	2.09	31	0.72	0.84
					0.55	e-9	0.55	1	0.32	0.24
					0.18	e-10	0.18	e-10	0.6	
						e-11		e-11	0.72	

927	1	拉致家族 動向「希望しない」 きょう小泉首相と面会	0.84	1	[李恩恵]重かった15年 公の場勇ましいった 田口さん兄「拉致突明力合わせ」 被害者の会 訪問員合わせ	4.59	1	手紙 夫帰後に投かん? 「よど号」メンバー 送覧遅らせる狙いか 安倍確認 さらに約10人 要請へ 警察庁 北朝鮮に拉致せよ 日本の反応に不復讐 朝鮮中央通信社に初言及 朝鮮家族 「訪問は生存者帰朝後」 「拉致」調査団	3.92	1	「拉致」家族、訪問せず 生存者帰朝優先 きょう首相と面会 「過度の騒動」日本非難 北朝鮮メディア「拉致」初の言及 拉致対応 主務省官邸に 外務省官邸に配慮 北朝鮮メディア「拉致」言及	4.2
	2	生存者、家族が拉致連絡 北朝鮮に打診へ 拉致調査団きょう出発 ゆかりの品に望み託し	0.4 0.6	31 e-1	「過度の騒動」警告 北朝鮮、拉致事件に初言及 拉致家族 「訪問は生存者帰朝後」 「拉致」調査団	0.78 0.45 0.36	2	朝鮮中央通信社に初言及 朝鮮家族 「訪問は生存者帰朝後」 「拉致」調査団	0.72 0.24	2	拉致対応 主務省官邸に 外務省官邸に配慮 北朝鮮メディア「拉致」言及	1.56
	38	娘の写真、自筆の手紙、メモ 拉致家族、調査団へ持参 有本さんと石岡さんの家族対面 生きついで難い同じ 「気になるのは子ども」も	2.64	e-18	家族に面会機会 帰朝団会も初合 職休、工作活動50件精査 「北の拉致」追加掲載 拉致被害者家族の支援チームの責任者に就任	0.48	5	中山恭子さん 中山恭子さん 家族の話を聞き相違しながら考えていく (社説)拉致とよど号赤紙 工作のすべてを徹底究明せよ 「田口八重子の兄です」	0.48	4	日本の動き、頓挫化回る 日朝インタビュー 拉致と安保対話から道 険	2.2
	e-22	「拉致」の記述変更 警察白書 総務省の監視言及 「拉致はでっち上げ」 朝鮮連環新聞「拉致」 「中国」に強出の日本人妻一家4人拉致して送還 北朝鮮元工作員が証言 夫死別、日本の報復送金	2.2 0.32 0.24 3.92	e-2 e-1 e-3 e-11	「拉致」の記述変更 警察白書 総務省の監視言及 「拉致はでっち上げ」 朝鮮連環新聞「拉致」 「中国」に強出の日本人妻一家4人拉致して送還 北朝鮮元工作員が証言 夫死別、日本の報復送金	0.6 0.78 0.78	31 e-1	拉致被害者家族会見 「田口八重子の兄です」 拉致被害者家族を優先 被害者家族聞き取り開始 首相も午後面会 北朝鮮 拉致論評国内で伝えず 拉致事件聞き取り 出発直前「何を今さら」 被害者家族 国への不信噴出 有本さん拉致事件が所を自宅隠蔽 警察庁 朝鮮連環新聞拉致報道で謝罪	0.6 0.72 0.72 0.32 1.28	39 e-1 e-31	川口外相 拉致・田口八重子さんの兄 「大韓機嫌破犯人の教育係」 報復苦しみ21年 拉致被害者家族と面談 政府 拉致被害者家族、調査団と面談 「在否の証明持ち帰って」 外務省、謝罪はなし	1.6 1.44 1.4
928	1	首相、被害者家族と面会 拉致事件 最優先を約束 首相、返答に力なし 首相と面会 「(拉致)解決は北の生きる道」 拉致事件 調査報道の重要性を痛感 拉致調査団 平壤に向け出発	6.72 1.12 0.32 0.6 0.72	1 3 14 15 e-1	首相 拉致被害者家族と面会 「対応に問題あった」 国交交渉 真相解明を優先 「援助ではなく経済制裁必要」 拉致被害者家族と面会 生存者帰朝 コメを協議継続 首相、具体的言及せず 「信頼するしかない」 平壤に向け出発	1.62 0.24 0.55 0.55	1 3 5 31 7 31	首相 拉致被害者家族と面会 「対応に問題あった」 国交交渉 真相解明を優先 「援助ではなく経済制裁必要」 拉致被害者家族と面会 生存者帰朝 コメを協議継続 首相、具体的言及せず 「信頼するしかない」 平壤に向け出発	1.62 0.24 0.55 0.55	1 3 5 31 7 31	拉致問題 「鮮明にしに正常化せず」 首相、被害者家族に明言 調査団出発当日の聴取 意味あるのか 「拉致」家族苦い不信 国交交渉影響も 拉致被害者家族要請書の要旨 (社説)小泉首相面会 手立て尽くし拉致帰朝を迫れ 「総理の声小さかった」 家族「物足りなさ」にじ心 拉致問題 元工作員を国際手配 原さん拉致 旅券、免許証不正に取得	0.72 0.32 2.88 0.72 0.72 0.32
	e-2	平壤に午後調査団到着	0.32	e-2	平壤に午後調査団到着	0.32	e-2		0.32	e-2		

「拉致」問題をめぐる4大新聞の荷重報道（木村・板村・池信）

		e-10	e-10	e-9	e-23	2.4	
9/29	「拉致」船供、政治決着か 国際法上は「困難」の見方 日本語放送で拉致事件報道 北朝鮮	e-10	拉致事件 週刊誌で協力要請 新聞協会 雑誌協会と民法連へ	0.24	拉致事件 「騒げばかえって危険」身を案じ22年 救出チャンス「今しかない」 松本麻さんの姉弟、拉致家族の会入り	0.72	
		e-1	警察庁 *認定外の**拉致被害者** 韓国にリスト照会へ	0.72			
		1	拉致調査団平壤入り 韓国憲法確認へ	0.5	2	拉致事件 政府調査団が到着 北朝鮮 生存者と面会へ 日本向けラジオで北朝鮮が拉致論評	0.32
		9	拉致事件に絡みの報道を ・梅やまれる「船み足」報道 ・米韓週刊誌には慎重さ必要	1.04	4	日朝インタビュー 日本向け放送で初めて拉致論評 北朝鮮	0.6
	30	拉致調査団平壤入り 韓国にリスト照会へ	4.59	3	拉致問題解決のために オールジャパンで対処を	1.44	
9/30	「外交なき安保」どう構築 日朝協議、米韓段階で離脱 殊る不届拉致も事 「拉致問題がなければ」 ・見つめる目	3	拉致調査結果発表に2日報告 政府調査団	1.36	1	拉致事件 12報道関係者で意見書 全答解明、強く求め	1.28
		12	拉致調査の手繰るるな	1.36	30	「歴史乗り越え共存を」 朝鮮総連副議長 拉致家族に「悲願な思い」	1.28
		13	小泉首相の訪朝 宣言は北朝鮮に有利/短時間の大英断言備/ 拉致止めさせた	0.72			
39		2.88	1.28	39	有本さん最後の手紙 拉致後に投かん? よと号グループ 足取り発表工作 不明の松本さん再捜査要請書	5.6	
					e-19		
						0.24	